

Blue Book

DVD
1枚

CD
2枚
付き

完全版

超
低速
メソッド

英語発音トレーニング

内海

lib. 003

e you hav

英語発音トレーニング

完全版
DVD 1枚
CD 2枚
付き

超低速 メソッド



かんき出版

はじめに

発音は、超低速メソッドで学ぶのが一番です

本書は、英語の発音を「超低速メソッド」で一つひとつ正しく身につけていくトレーニングブックです。

超低速メソッドとは、文字通り通常より約3倍ほどゆっくりと読み上げられた音声(映像)を用いた発音習得法です。これにより、ノーマルスピードではなかなかつかめない音や、日本人が苦手とするネイティブ特有の聞こえづらい音を感覚的に習得することが可能になります。

私はこの超低速メソッドを広めるべく、これまで2冊の本を出版いたしました。「これなら真似できる!」「発音の細かな違いがわかった!」という声を、学生から、発音を指導するプロの先生まで、幅広い方々よりいただいております。

本書は、彼らからいただいた「ネイティブの口の動きを、ぜひとも目でも確認したい」という要望から生まれた、本メソッドによる初めてのDVDブックです。CDも付いていますから、耳からも目からも、じっくりと発音練習ができるようになっています。

超低速メソッドの特徴

超低速メソッドは、よくある機械的な処理ではなく、ネイティブに生の声でゆっくり読んでもらうことにより、発音する際のポイントが強調された発音教材です。

驚くほどのスロースピードで英語を聞きながら、それをなぞるように真似していくことで、効果的に発音が身につきます。そして、トレーニングを重ねていくうちに、自然とナチュラルな英語が話せるようになっていくのです。

超スローだから、まったくの初心者でも、クセや訛りなまを矯正したい

中級者でも、短期間で上達できることを保証します。

ナレーターJosh Kellerさんについて

付属DVDとCDの製作には、今回も「超低速シリーズ」でお願いしているJosh Kellerさんにご協力を仰ぎました。

彼は、数多くのTVやCMでご活躍されている、大変素晴らしいアメリカ人ナレーターです。彼の声聞いたことがあるという方も多いでしょう。

日本で活動している英米人ナレーターは数多くいらっしゃいますが、**Joshさんは本場アメリカの厳しい訓練を経た正統派であり、その発音・声・読み上げの技術は他の追随を許しません。**私の米国人の友人の中にも、「あんな声と発音で朗読できたり、話せたらなあ」と羨む人が何人もいます。

Joshさんは、私がこの「超低速シリーズ」を始めるにあたり、何人ものプロのネイティブの中からオーディションで選ばれた方です。この最高のお手本をしっかり聞いて練習を積んでいけば、発音が上達しないはずがありません。

英語の発音は大切なのか？

英語（外国語）の発音に関して、「日本人には日本人の発音があっ
ていい。だから、発音など気にせずに堂々と話せばいい」「発音より
内容が大切だ」などという意見をよく耳にします。

学習を始めたばかりの人や実際に英語を使う機会のない人が聞くと、「なるほど」とうなずいてしまうような言い分ですね。何を隠そう、かつての私は同じように思っていました。「発音よりもスラスラ英語が出てくるのが大事だ」と。

しかし、いざ米国で生活を始めてみると、「あれ、なんでこんな簡単な英語が通じないんだ？」と思う事が時々ありました。日本でアメリカ人教師と話すときにはまったく問題がないレベルにまでなっていたのに、です。

日本人の英語のクセに慣れていないネイティブスピーカーは、大人も子どもも「察して」くれないのですね。これが「本場の厳しさ」でしょう。実際に会話の中で、「この日本人が何を言っているかわからないけど、まあ、いいや」で、やりとりが終わってしまうケースが少なからずあるのです。

様々な経験を経た私は、**少なくとも相手が必要以上に努力しなくてもわかってもらえる英語を話すように頑張るべきだ**と考えるようになりました。

「日本人には日本人の発音があっていい」という意見に対しては、「その通り。**でも、通じなければ意味はありません**」し、「ましてや、それを発音練習をしない隠れ蓑みのにすべきではない」というのが私の考えです。また、どうして「内容」と「発音」というまったく異なる2つを比較し、一方を切り捨てようとするのか、私にはわかりません。内容と発音、ともに大切です。どんなに高尚な内容を話しても、通じなければ、やはり意味はありません。

様々な理論武装した「発音練習不要論」がありますが、「悪魔のささやき」には耳を貸さないことです。ぜひ、これまで学んできた単語・文法を120%活かすためにも、本書で正確な発音を一緒に身につけましょう。

各LESSONについて

内容紹介&ワンポイント・アドバイス

WARM-UP I & II

本編に入る前にご紹介するウォームアップは、英米においてプロの役者たちにも取り入れられている方法です。このトレーニングをやった後は、口から出てくる英語の流れがスムーズになっていることが実感できるはずです。

アルファベットと数字には、発音のエッセンスがぎっしりと詰まっています。決して軽視せずに確実に練習をしてください。

LESSON 1~3 母音、二重母音など、子音

ここでは、母音、二重母音、子音の単音を1つずつマスターしていきます。この単音は、英語発音という世界を作る「部品」です。立派な完成品を作るには、きちんとした部品をそろえる必要があります。

歪んだ部品ではまともな物は作れません。LESSON 1~3を繰り返すだけでも、十分に通じる英語が身につきます。中級者・上級者の方も、軽視せずに初心に戻って取り組んでください。

LESSON 4 発音を解剖する

ここでは、日本人の苦手とする子音と母音の切り離しを徹底して練習します。この練習を積む程に切れ味のよい発音が身につきます。決して慌てずに、ゆっくりと1音ずつ練習してください。初心者にとっては、より正確な発音の習得につながる精密な練習となります。

LESSON 5 発音しにくい単語の練習

このレッスンでは、意図的に発音しにくい単語を練習します。ねらいは、口と舌に強い負荷をかけることにより、より安定した発音を使いこなせるようにすることです。これにより、長い文章を読んだり、

長時間にわたる会話を続けても、発音が乱れて雑にならない**強靱な口**と舌が鍛え上げられていきます。

LESSON 6 負荷をかけた発音練習

「マイ・フェア・レディ」という映画をご覧になったことはありますか？ この作品に、オードリー・ヘプバーン演じるロンドンの下町娘が、発音矯正を受ける場面があります。このときのトレーニングが、口の中にマール(ガラス玉)をたくさん入れたまま発音を練習するというものです。古代ギリシャの弁論家も、口に小石を入れてスピーチ練習をしたと言われています。

みなさんの場合はマールや小石ではなく、ご自身の舌を利用していただきます。つまり力を入れながら、舌をわざと不自然な位置に置くのです。初めは、発音する際に舌が邪魔に感じられるでしょう。その分、**舌を元に戻して発音したときの軽快さは感激ものです**。練習を重ねるにつれ、確実に進歩していることを感じるはずです。

LESSON 7 同じように聞こえる発音を区別する

発音の改善だけではなく、リスニング力の向上という点において重要なレッスンです。発音の区別ができないと、会話の前後関係から意味を推測したり、相手に推測してもらったとしても、誤解を生むことがあるでしょう。

しかし、**ここで各発音を区別できるようになれば、正確なインプットもアウトプットもできるようになります**。

LESSON 8 発音の変化

英語の聞き取りを難しくしている原因は、ネイティブの話すスピー

どもさることながら「発音の変化」にあります。

ここでは、ネイティブの自然な会話で現れる発音の変化を体系的に解説します。読んで理解したうえで練習をすれば**ネイティブの自然な会話を聞き取る力が身につきます**。さらには、自身もよりネイティブに近い自然な英語を使えるようになります。

LESSON 9 リズムの練習

LESSON 8までを地道に練習してきた人がこのレッスンでリズム感をつかむと、その人の英語はさらに本物に近づきます。「日本人の話す英語にはリズム感がない」と言われますが、ここでしっかり練習すれば「日本人離れした英語を話す人」と思われるようになるでしょう。

LESSON10 文章で発音練習

練習の最後は、内容のある文章の朗読です。このレッスンでは様々な英文を扱っています。

ここで紹介する文章もモデルを参考にしながら、まずは一つひとつの発音をしっかりと読み込んでいき、スムーズに言えるまで何度も音読してください。文意をかみしめて、最終的には原稿がなくても感情が込められた内容が伝わるように練習しましょう。**この練習は、人前でプレゼンテーションをする人にとっても有効な練習になります**。

FREEBIES カタカナを英語で発音する

残念ながらほとんどのカタカナは英語として通用しません。カタカナになった段階で発音がまったく異なってしまうからです。ここでリストアップされたカタカナの正しい発音を覚えて、有効活用してください。

トレーニングに向けて

本書の効果をさらに高める 使い方をご紹介します

習熟レベルを問わず、基本的にLESSON 1からLESSON 10まで順番に読み進めてください。とくに発音を初めて学ぶ方は、LESSON 1～3を必ずしっかり練習してください。この3つのレッスンは本書の土台です。それに加えてLESSON 4は、初心者にとってより正確な発音の習得に向けての精密な練習となりますので、やはり、じっくりと取り組んでください。正確な発音に向かって確実に歩き出すこととなります。

これまでひと通り発音練習をされてきた方(中級者)もあらためてLESSON 1～3を十分に復習して、LESSON 4～7をしっかり練習することで、自分の英語に余裕が生まれます。

すでにほとんど問題なく英語を話している上級者は、さらに英米人と対等にコミュニケーションをするべくLESSON 8とLESSON 9に力点を置かれるとよいでしょう。もちろん、上級者も再確認と復習を兼ねてLESSON 1～3の基礎稽古も自分に厳しく行っていただきたく思います。また、大勢の前で英語を話す方、英語アナウンスなどをされる方はLESSON 4とLESSON 5を日常的に練習されることをお勧めします。

レベルに関係なくWARM-UPは日常的にやってください。

LESSON 7は、初心者はもちろん、上級者も微調整とオーバーホールのために時々やってください。そして、LESSON 10は総仕上げです。初心者がここまでたどりつくまでにはかなりの日数も必要かと思いますが、他のレッスンの途中にでも気分転換として読み上げて楽しんでいただきたく思います。

超低速メソッドでの学習法

練習にあたっては、まずは超低速で行ってください。焦ってノーマルスピードを使う必要はまったくありません。超低速でしっかり練習していけば、話すスピードは自然と上がっていきます。しかも、正確にです。

ただし、ノーマルスピードで練習したほうが効果が高いと思われるトレーニングでは、超低速スピードは収録していません。LESSONごとに適切なスピードの音声と映像を収録しています。

付属DVDとCDの使い方

本書では、まずDVDで音に集中しながらも、口の動き、そして目に見える範囲で舌がどのように動いているか、などをしっかりと観察しながら練習するとよいでしょう。せっかくの視覚教材です。目で見える部分を大いに活用してください。

口や舌などの動きがわかってきたら、CDを使って音に集中してください。この「音に集中する」ことが非常に大切です。視覚に注意を払うあまり、耳がおざなりにならないようにしてください。

練習に臨む姿勢

練習は少し大きさなくらいにやりましょう。大きな練習をすることによって、実際の自然な会話でより楽に発音できるようになっていきます。

発声は、とくに練習時は、お腹にボールが当たったときに思わずグッと力を入れて締める感じでお腹から息を押し出すように意識するとよいでしょう。慣れてくると、それ程お腹をギュッと締めなくてもできるようになります。頭のてっぺんから出すような甲高い声を避

け、意識を胸より下のほうに持っていき、若干低めの声で練習しましょう。深く呼吸をしながら発声することを心がけてください。

注意書き

なお、本書では発音を可能な限り実態に近い形で表すべく、発音記号、カタカナ、実際の音に近いスペルなどを使用しています。とくにカタカナの使用に関しては、賛否両論があるかもしれませんが、モデル音をしっかり参考にしたうえで活用すれば、カタカナは私たち日本人にとって強力な味方となり得ます。利用できるものは何でも利用していきましょう。

また、本書は米語発音を基準としており、発音記号は、英・米・日の辞書や専門書を参考にしながら、独自の記号を使用しています。

CD・DVDの表記

CD1 66

↑
CDの種類を示しています。

↑
CDのトラック数を示しています。

DVD ALPHABET

↑
DVDのチャプターを示しています。
本とDVDのLESSONは共通しています。

※※ CONTENTS ※※

はじめに 3
各レッスンについて 6
トレーニングに向けて 9

WARM-UP I 舌と口のエクササイズ 17

CD

WARM UP II ALPHABET & NUMBERS 20

DVD

CD

LESSON 1 母音

DVD

日本語の「ア」に聞こえる音 22
(01) [a]、(02) [æ]、(03) [ʌ]、(04) [ɑː]、(05) [ɛː]、(06) [ə]
日本語の「イ」に聞こえる音 28
(07) [i]、(08) [iː]
日本語の「ウ」に聞こえる音 30
(09) [u]、(10) [uː]
日本語の「エ」に聞こえる音 32
(11) [e]
日本語の「オ」に聞こえる音 33
(12) [ɔː]
☝ ちょっとティータイム ☹ 英語がわからない! 冷や汗をかく通訳場面 34

CD

LESSON 2 二重母音など

DVD

日本語の「アイ」に聞こえる音 36
(01) [ai]
日本語の「アウ」に聞こえる音 37
(02) [au]
日本語の「イアー」に聞こえる音 38
(03) [ir]
日本語の「ウアー」に聞こえる音 39
(04) [ur]
日本語の「エアー」に聞こえる音 40
(05) [er]
日本語の「エイ」に聞こえる音 41
(06) [ei]


日本語の「オイ」に聞こえる音 ……………	42
(07) [ɔi]	
日本語の「オー」に聞こえる音 ……………	43
(08) [ou]	
日本語の「オアー」に聞こえる音 ……………	44
(09) [ɔ:r]	
日本語の「ユウ」に聞こえる音 ……………	45
(10) [ju:]	
日本語の「アワー」に聞こえる音 ……………	46
(11) [aur]	

CD

LESSON 3 子音

DVD


日本語の「プ」、「ブ」に聞こえる音 ……………	48
(01) [p] , [b]	
日本語の「トゥ」、「ドゥ」に聞こえる音 ……………	49
(02) [t] , [d]	
日本語の「ス」、「ズ」に聞こえる音 ……………	50
(03) [θ] , [ð]	
日本語の「ク」、「グ」に聞こえる音 ……………	51
(04) [k] , [g]	
日本語の「フ」、「ブ」に聞こえる音 ……………	52
(05) [f] , [v]	
日本語の「フ」に聞こえる音 ……………	53
(06) [h]	
日本語の「ル」に聞こえる音 ……………	54
(07) [l]、(08) [r]	
日本語の「ス」、「ズ」に聞こえる音 ……………	56
(09) [s] , [z]	
日本語の「ウ」に聞こえる音 ……………	57
(10) [w]	
日本語の「イ」に聞こえる音 ……………	58
(11) [j]	
日本語の「シュ」、「ジュ」に聞こえる音 ……………	59
(12) [ʃ] , [ʒ]	
日本語の「ム」に聞こえる音 ……………	60
(13) [m]	

日本語の「ン」に聞こえる音 …………… 61
(14) [n]
日本語の「ング」に聞こえる音 …………… 62
(15) [ŋ]、(16) [ŋg]
日本語の「チ」に聞こえる音 …………… 64
(17) [tʃ]
日本語の「ジ」に聞こえる音 …………… 65
(18) [dʒ]
日本語の「ツ」に聞こえる音 …………… 66
(19) [ts]
日本語の「ズ」に聞こえる音 …………… 67
(20) [dz]
 ちょっとティータイム② 発声と呼吸〈その1〉 …………… 68


DVD LESSON 4 発音を解剖する

Let's warm up …………… 71
Let's Practice 1～5 …………… 71

DVD LESSON 5 発音しにくい単語の練習

発音しにくい単語A～D …………… 74
 ちょっとティータイム③ 発声と呼吸〈その2〉 …………… 76

DVD LESSON 6 負荷をかけた発音練習

負荷練習A～C …………… 78
 ちょっとティータイム④ たかが発音、されど発音〈その1〉 …………… 80

CD LESSON 7 同じように聞こえる発音を区別する

DVD	「ア」に聞こえる音 …………… 82
	(01) [ɑ] & [ʌ]、(02) [ɑ] & [æ]、(03) [æ] & [ʌ]
	「オー」に聞こえる音 …………… 85
	(04) [ou] & [ɔ:]

「イ」、「イー」に聞こえる音	86
(05) [i] & [i:]	
「アー」に聞こえる音	87
(06) [ə:] & [ɑr]	
「フ」に聞こえる音	88
(07) [h] & [f]	
「ブ」に聞こえる音	89
(08) [v] & [b]	
「ス」に聞こえる音	90
(09) [s] & [θ]	
「ズ」に聞こえる音	91
(10) [z] & [ð]、(11) [z] & [dz]	
「プ」、「トゥ」に聞こえる音	93
(12) [p] & [t]	
「ル」に聞こえる音	94
(13) [l] & [r]	
「イ」、「イー」に聞こえる音	96
(14) [i] , [i:] & [ji] , [ji:]	

CD

LESSON 8 発音の変化

[01] 自然な発音の変化	99
[02] 発音変化の基本①「沈黙」	103
[03] 発音変化の基本②「連結」	109
[04] カジュアルな会話での発音変化	115
[05] 沈黙・連結を含んだ発展練習	124
[06] “t” にご注意	129
[07] [ə] schwa (シュワ) について少々	134
[08] 裏技「隠しカード」でズルをする	136

CD

LESSON 9 リズムの練習

Let's Warm Up/A~G	149
Let's Practice/PATTERN 1~4	152
DIALOGUE 1~11	156

☕ ちょっとティータイム 5 たかが発音、されど発音 〈その2〉 …………… 168

CD **LESSON 10** 文章で発音練習

PASSAGE 1~6 …………… 170

☕ ちょっとティータイム 6 たかが発音、されど発音 〈その3〉 …………… 184

CD **FREEBIES** カタカナを英語で発音する …………… 186

おわりに …………… 190

DVD 出演・CD ナレーション：Josh Keller
DVD・CD 制作・編集：中嶋徹、横山洋介（爽美録音株式会社）
ヘアメイク：岡本紀子
ブックデザイン：大山真葵（ごぼうデザイン事務所）
本文イラスト：門川洋子
編集協力：友人社
DTP：友人社、Design Labo よこやま
カバー写真素材：goir(shutterstock)

WARM-UP I

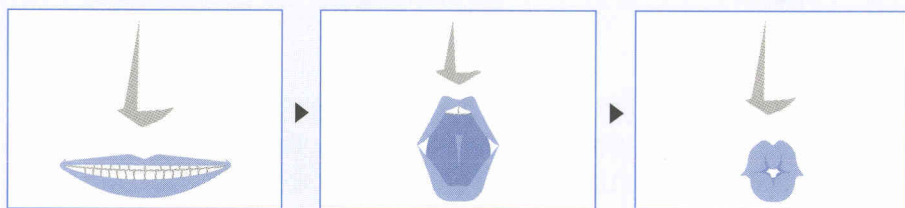
舌と口のエクササイズ

正確な音を出すためには、しっかりと意のままに動いてくれる力強い舌と口が必要です。ここでは舌と口を鍛えるトレーニング法を紹介します。

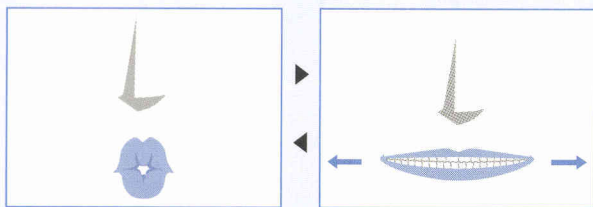
英米では、明瞭かつ正確な発音が求められるプロの舞台役者たちもこのトレーニング法を実践しています。

舌がしびれたり、口が疲れたりするかもしれませんが、心配はご無用。これは柔軟体操や筋トレに相当するものです。できるだけ毎日やってください。このエクササイズを続けていくと、舌と口がだいぶ軽くなってくるはずです。

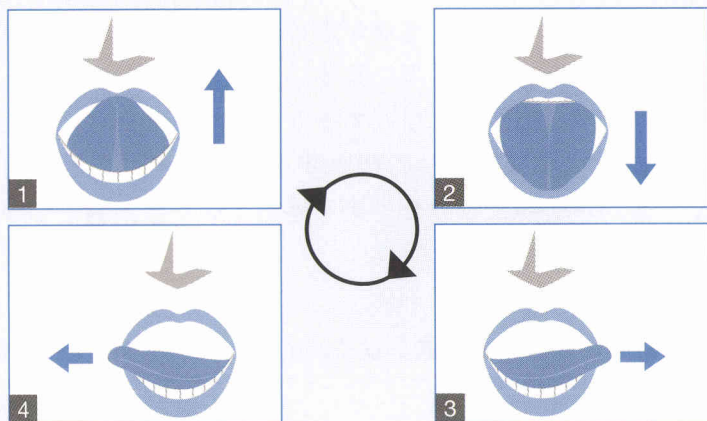
- ① 口を思い切り大きさに動かして、イー・アー・ウーと20回繰り返す。



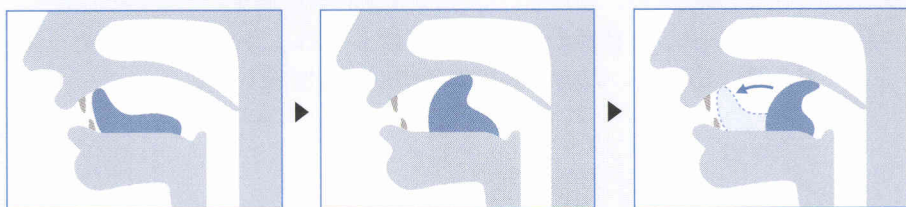
- ② 口を突き出した状態から、ゴムがはじけるように思い切り引っ張り、横に広げて、wee, wee, weeと20回繰り返す。



- ③ 口を大きく開けたまま、舌先を上唇に付け、次に下唇に付け、次に口の左端、最後に右端に舌先を付けていく。舌で十字を切るような動きです。これを20回繰り返す。



- ④ 舌先を口蓋（上顎）に沿って思い切り力を入れて押し付けながら前の歯茎から奥まで舌を巻き上げるようにして、ゆっくりとスライドさせる。もうこれ以上動かさせないところまで来たら、舌をゆっくりと同じように押し付けながら元に戻る。これを1分間行う。



- ⑤ 以下を歯切れよく何度か言う。最初はゆっくりとしっかりと。だんだん速く歯切れよく言えるようにする。量が多すぎると感じるならば、その日のものを選んで練習するようにする。

la, la, la, la
li, li, li, li
lu, lu, lu, lu
le, le, le, le
lo, lo, lo, lo

ta, ta, ta, ta
ti, ti, ti, ti
tu, tu, tu, tu
te, te, te, te
to, to, to, to

na, na, na, na
ni, ni, ni, ni
nu, nu, nu, nu
ne, ne, ne, ne
no, no, no, no

da, da, da, da
di, di, di, di
du, du, du, du
de, de, de, de
do, do, do, do

sa, sa, sa, sa
si, si, si, si
su, su, su, su
se, se, se, se
so, so, so, so

za, za, za, za
zi, zi, zi, zi
zu, zu, zu, zu
ze, ze, ze, ze
zo, zo, zo, zo

以上すべてを行うのが大変ならば、①と④だけでもかまいません。2分もあればできます。私は道を歩いているときや電車の中で、④をやります。周りの人は誰も気づきませんので。

WARM-UP II

ALPHABET & NUMBERS

私たちはともすると「基本」を軽視しがちですが、スポーツや楽器をはじめ、技術を身につけ、それを維持向上させるには初級者、上級者に関わらず基礎練習が欠かせません。英語も同じです。一流の人ほど基礎を大切にしています。

アルファベットと数字には、発音のエッセンスがぎっしり詰まっています。軽視せずに確実に練習してください。モデルのゆっくりとした発音を真似していくことで、正確な発音に必要な道具がそろうことになります。

ここでの練習は大切な基礎となります。しっかりと練習しましょう。

CD1 01 DVD ALPHABET

A B C D E F G H I
J K L M N O P Q R
S T U V W X Y Z

CD1 02 DVD NUMBERS

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
11 12 13 30 100

LESSON 1

母音

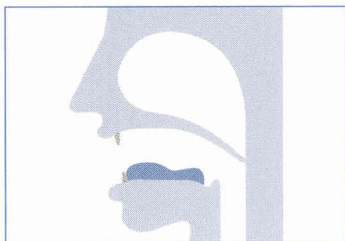
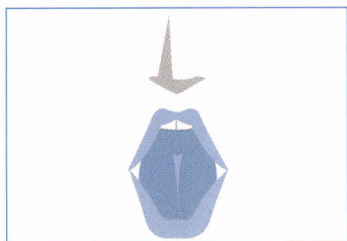
VOWELS

発音練習というと、子音の重要性のみが強調されることがありますが、それによって母音の重要性が打ち消されることにはなりません。本書では母音・子音どちらも大切に練習していただきます。実際にネイティブ同士でも訛りを感じさせるのは母音です。ましてや、母音をないがしろにしたカタカナ英語では、訛りを感じさせるどころか、話を通じないということにもなりかねません。

英語における母音の数は、日本語のそれよりも圧倒的に多く存在します。私たちはそれを一つひとつ克服していかなくてはなりません。練習をしっかりと積むことによって、通じる英語への一步を踏み出しましょう。

01 日本語の「ア」に聞こえる音

[a]



日本語の「ア」に似ていますが、英語の場合はもっと深く、太い感じの音です。大きくアクビをするように自然と舌の真ん中から奥にかけてを^{くぼ}窪ませて喉を広げます。この感覚を覚えて練習してください。何回かわざとアクビをして感覚をつかみましょう。

WORDS

CD1 03

DVD [a]

[a]	top	cod	watch
	knowledge	involve	

DIALOGUE

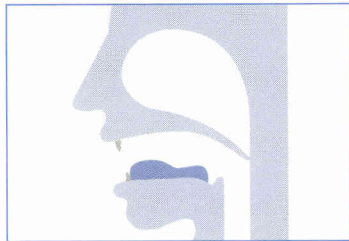
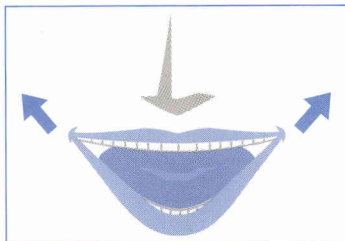
CD1 04

DVD [a]

- I forgot to lock the box!
- Ask Bob to lock it.

02 日本語の「ア」に聞こえる音

[æ]



口を逆三角形のような形にして大きく開けます。口を横に引っ張って「エ」を言いながら、そのまま口をゆっくり縦に開いていきます。口の形が逆三角形になったときに「ア」とも「エ」とも言えない音が出ます。それが [æ] です。

WORDS

CD1 05 DVD [æ]

[æ]

ask

back

thank

jacket

photograph

DIALOGUE

CD1 06 DVD [æ]

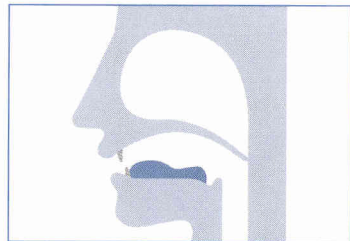
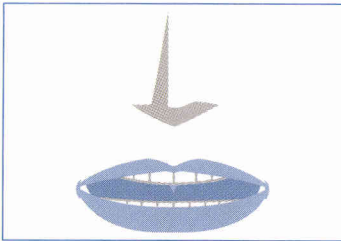
—Nancy's **dad** passed away **last** night.

—Oh, no. I **ran** into him at the **candy** store just **last** **Saturday**.

*atは強調してゆっくり発音するときは [æt] となりますが、通常は [ət] と発音されます。

03 日本語の「ア」に聞こえる音

[ʌ]



日本語の「ア」と混同されがちな音ですが、「オ」の音色がかなり入り込んでいる音だと思ってください。「ア」を言うつもりで「オ」を言ってみます。または、「オ」の発音を意識しながら「オ」の口の形で「ア」と言ってもよいでしょう。いずれにしても口はあまり大きく開けず、ポカンと軽く開けた状態にします。

WORDS

CD1 07

DVD [ʌ]

[ʌ]

cut

mud

done

plum

southern

DIALOGUE

CD1 08

DVD [ʌ]

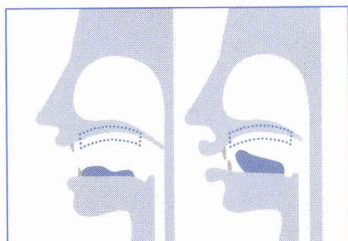
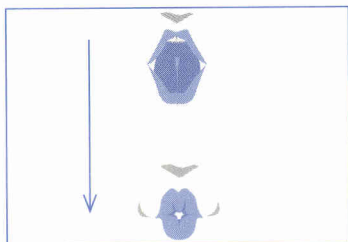
-Hey, give me the **butter** if you are **done**.

-Wait. I **must** get the **onions** and **shut** the **oven**.

*mustは速いスピードで発音される場合、[ʌ] は [ə] になります。

04 日本語の「ア」に聞こえる音

[ar]



まず01の [a] を言います。そして、開けた口を若干小さくしながら舌先を少し上げて、こもったような音の [r] を発音します。その際、舌の先端はどこにも付けません。

[r] については、舌先を上げずに舌の真ん中を少し盛り上げることで口蓋（上右図の点線部分）と舌の間のスペースを狭めて音を出す方法もあります。どちらの方法でも、舌の奥の両端は上奥歯の左右に付いて構いません。[r] は、口先を軽くおちょぼ口にするとうりやすいでしょう。

WORDS

CD1 09

DVD [ar]

[ar]

large

start

parcel

remark

starvation

DIALOGUE

CD1 10

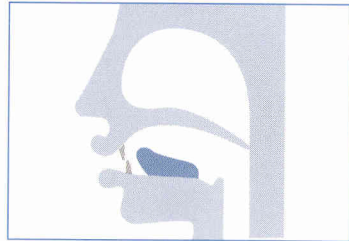
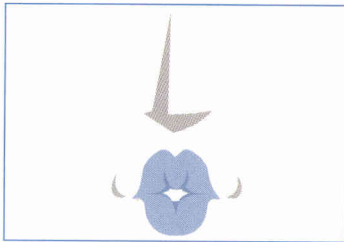
DVD [ar]

-Did **Arthur** make this **card**? He's very **artistic**!

-He is an **art** student. Besides, he works **hard** with all his **heart**.

05 日本語の「ア」に聞こえる音

[ə:]



04の[r]と同じ音質です。口はほとんど開けません。若干おちよぼ口気味にすると舌も自然と正しく動いてくれます。お腹から空気を押し上げてこもった音を出します。舌先は口の中で若干上に上げますが、どこにも触れません。舌の奥の両端は上奥歯の左右に触れて結構です。

WORDS

CD1 11

DVD [ə:]

[ə:]	earth	bird	purple
	flirt	cupboard	

DIALOGUE

CD1 12

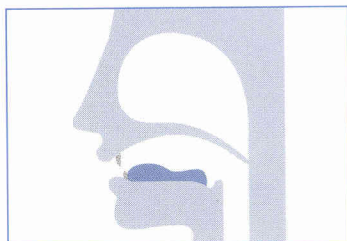
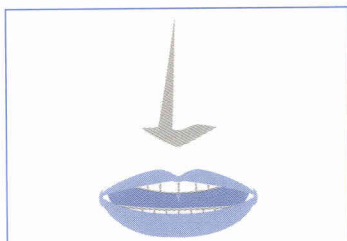
DVD [ə:]

-Why do the girls have to get up early and fly to Perth tomorrow?

-They're having an urgent meeting with this particular team.

06 日本語の「ア」に聞こえる音

[ə]



音質は03の [ʌ] と同じですが、この音には [ʌ] 程の強勢はありません。実は、[ə] は自然な発話では「イ」に近い音を含むことがあります。それを意識して曖昧^{あいまい}に言ってみましょう。映画などで自然な英語を聞けますので、注意深く聞いてみてください。強勢のない母音の多くが、スペルに関係なくこの音になります。

WORDS

CD1 13

DVD [ə]

[ə]	about	Japan	lemon
	nation	terrible	

DIALOGUE

CD1 14

DVD [ə]

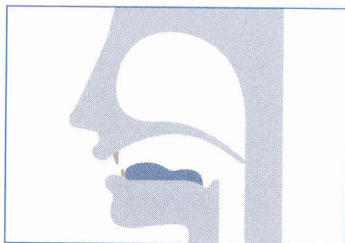
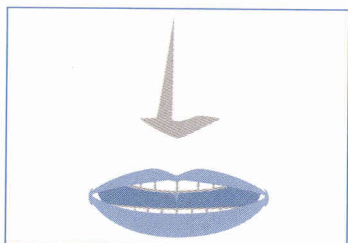
– Sandra has been working as a telephone operator in England for about five years now.

– I suppose she is not coming back to Japan.

*自然なスピードの会話では、hasとasのa部分は [æ] よりも、むしろ [ə] になる傾向にあります。ともにスロースピードでは [æ] で発音されています。また、toはスロースピードでは [tu:] となる傾向があります。

07 日本語の「イ」に聞こえる音

[i]



日本語の「イ」とは異なります。「イ」と「エ」の中間音と
てよいでしょう。まず、「イ～エ」を途切れずにゆっくりと続けて
言ってみましょう。「イ」から「エ」へ移動する中間点でモデルと
同じ音を見つけて、そのときの口の感覚を覚えます。下顎^{したあご}を前に少
し突き出して、そろえた上下の前歯の間に少々スペースを取って
「イ」と言うときの音が出やすいと思います。

ここでは「イー」～「エ」と2回言います。その中間にある [i]
を認識する練習をしてから、単語で練習をします。

WORDS

CD1 15

DVD [i]

[i]

ship

sit

live

milk

village

DIALOGUE

CD1 16

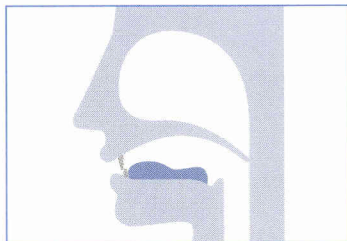
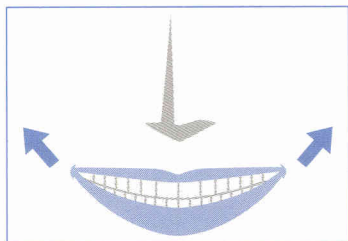
DVD [i]

–What did you have for dinner?

–I had **Indian curry**. I also had some fish and chips.

08 日本語の「イー」に聞こえる音

[i:]



この音は口を横に引っ張って「イー」と発音しなさい、とよく言われます。その通り練習して結構ですが、あまり引きすぎると音がきしんで違う音になってしまいますので、ご注意ください。

たとえば she を発音する場合、sh の発音は口を横に引っ張ったままでは難しいです。“sh” を発音するために口先を少し突き出しますが、そのまま [i:] も発音します。つまり、[i:] は口を横に引っ張らなくても出る音なのです。しかし、練習は少し大きさにやってよいでしょう！

WORDS

CD1 17

DVD [i:]

[i:]	eat	beat	teach
	sleep	hygiene	

DIALOGUE

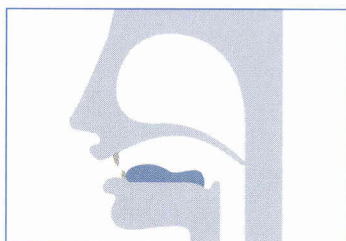
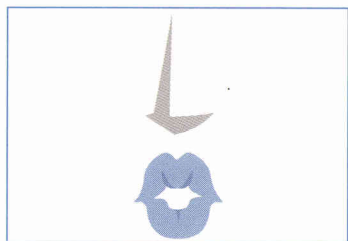
CD1 18

DVD [i:]

- Steve keeps his sheep and beavers in the steam room.
- Can you believe he asks his niece to feed them?

09 日本語の「ウ」に聞こえる音

[u]



「ウ」よりも口をやや縦に開き、舌を少しだけ低い位置にします。若干「オ」の響きも含まれます。口を「オ」の形にして「ウ」と言ってみます。または、「ウ」と言うつもりで「オ」を言います。最初はぎこちない感じがするかもしれませんが、練習を重ねていくうちに感覚がつかめてきます。いずれにしても日本語の「ウ」とは少し違うことを意識してください。

WORDS

CD1 19

DVD [u]

[u]	hood	cook	pull
	push	wood	

DIALOGUE

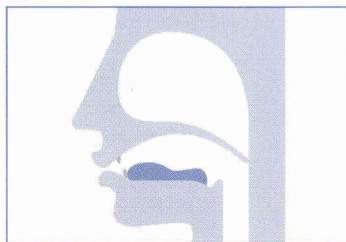
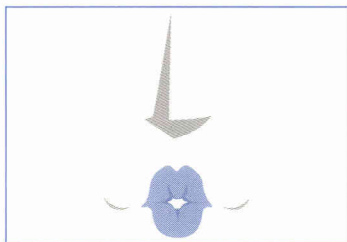
CD1 20

DVD [u]

- Someone **took** the **cookies** I **put** on the table.
- Some **good-looking** **woman** came and **took** them.

10 日本語の「ウ」に聞こえる音

[u:]



まず、口笛を吹く感じで「ウー」と言います。その際、唇を口笛よりもわずかに大きく開けるといいでしょう。基本的に日本語の「ウー」で構いません。参考までに、わずかに「オ」の響きをもって発音する人もいます。

WORDS

CD1 21

DVD [u:]

[u:]	cool	moon	noodle
	shoot	stew	

DIALOGUE

CD1 22

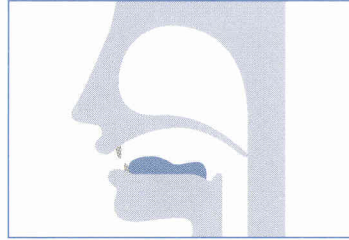
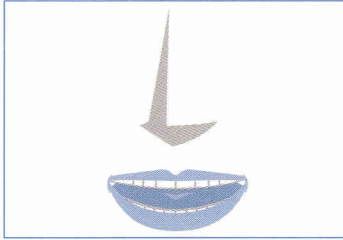
DVD [u:]

- Does Sue like shooting pool?

- Yes, she shoots for two hours with her group every Tuesday.

11 日本語の「エ」に聞こえる音

[e]



日本語の「エ」よりも口を少し縦に開き、舌の真ん中を若干下げ、少し時間をかけながら発音します。ネイティブの発音をよく聞くと「ア」とさえ聞こえることもあります。

WORDS

CD1 23

DVD [e]

[e]

set

pen

blend

many

crescent

DIALOGUE

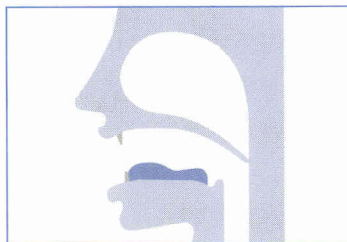
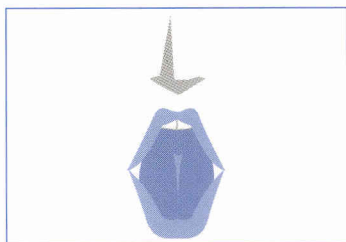
CD1 24

DVD [e]

- Why was he held up in the tent for ten days? It's terrible!
-He said something against the head of the department.

12 日本語の「オ」に聞こえる音

[ɔ:]



この音は地域または人によってかなりばらつきがあります。米語発音の場合、日本語の「ア」に近い音、つまり01の [a] で発音する人もいますし、[a] とは微妙に違う「オ」にやや近い音で発音する人もいます。いずれにしても舌の真ん中から奥にかけて窪ませて、喉の奥から音を出すように言います。

WORDS

CD1 25

DVD [ɔ:]

[ɔ:]	dog	coffee	often
	tall	offer	

DIALOGUE

CD1 26

DVD [ɔ:]

- How often do you drink coffee? Obviously you love coffee.
-Yes, I love coffee. I just bought tons of coffee beans.

英語がわからない！ 冷や汗をかく通訳場面

通訳をしていて冷や汗をかいたことは何度もありますが、その中でも今振り返れば笑ってしまうものもあります。ずいぶん前のことですが、A国政府の高官であるB氏が、調印式のために来日し、会議、視察などを2日間連続でこなしました。B氏は英語が得意ではなく、母語で話していたので、英語通訳者を同行させていました。当然、会議から調印式後のマスコミの囲み取材まで全てリレー通訳の形（日本語⇄英語⇄A国語）を取ります。不安もありましたが、全てスムーズに消化して、最後の夜に晩餐会が行われました。

宴もたけなわ、A国側と日本側も大いに仲良くなり、時間が経つほどに盛り上がってきています。B氏もたいへん良い気分になって「英語でスピーチをする」と言い出し、私は正直なところ「いやだな～」と思ったのですが、仕方がありません。

案の定、B氏の英語はわかりにくく、何とか訳していました。たどたどしいスピーチの途中「我々の関係は“etto”だ」とB氏は言うのです。私は「うーん、何だろう？ “エット”ってeatの過去形のateのつもりか？ いや、もしかしてeggか？」とも思ったのですが、ここで誤訳してしまったら取り返しがつかないと判断し、最後のギリギリまで溜めていました。するとB氏、最後のほうで言ってくれました！ 「今夜食べたettoはやがて鳥となって空高く羽ばたいていくでしょう」と。やはりeggと言っていたのです！ その時点で自信を持って先ほどの箇所をまとめて通訳することができました。

このように1語でも不明瞭な発音があるがために話があやふやなものになってしまう、ということは何度も経験しています。私も気をつけなくてははいけないし、さらに精進しなくてはと思ったものでした。やはり、発音…大切です。

LESSON 2

二重母音など

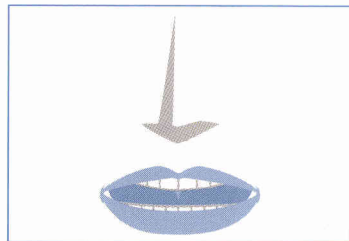
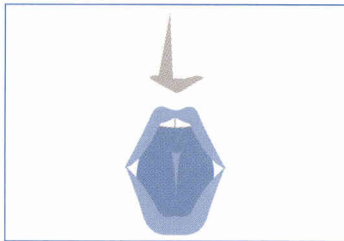
DIPHTHONGS

二重母音とは、文字通り2つの母音を重ねた音です。日本語にも二重母音の現象はありますが、音と音のつなげ方は英語のほうがスムーズです。また、私たちは、boatを「ボート」のように「一」で伸ばしますが、英語では [bout] となります。[o] の部分を強めて [u] は軽く添えるように発音しますので、リズムも日本語のそれとは異なります。

LESSON 1で母音をしっかり練習した人には、二重母音はそれほど難しくありません。リズムをつかみにくい人は、手で拍子をとったりして体で覚えてください。なお、複数の音をスムーズにつなげるという観点から、厳密には二重母音とも言えないものもここでは扱っています。

01 日本語の「アイ」に聞こえる音

[ai]



「アイ」と聞こえます。しかし、日本語の「アイ」と比べて、長さ・強勢ともに「a:i=2:1」くらいの気持ちで発音します。「a」では日本語の「ア」より少し大きめに口を開け、舌も中央部をスプーンのように窪ませます。「イ」の部分は母音07の「i」です。2つの音をスムーズにつなげて発音します。

WORDS

CD1 27

DVD [ai]

[ai]

lie

dime

spy

thigh

tidal

DIALOGUE

CD1 28

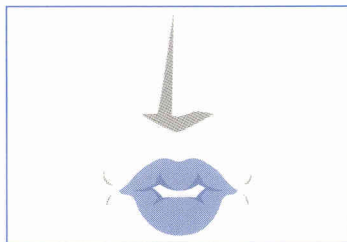
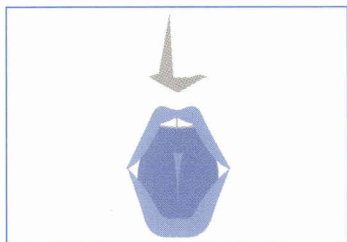
DVD [ai]

-I tried the new tie you designed. It's a new style. Very refined!

-Right. I spent so much time in my studio designing it.

02 日本語の「アウ」に聞こえる音

[au]



「アウ」と聞こえますが、やはり「a : u = 2 : 1」くらいの気持ちで発音します。[u] では口先を少しすぼめるようにします。練習を重ねていくとスムーズにできるようになります。参考までに、アメリカでは [æu] という人もいます。

WORDS

CD1 29

DVD [au]

[au]

cow

power

couch

south

drought

DIALOGUE

CD1 30

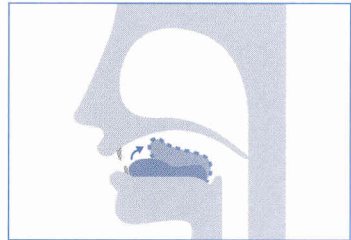
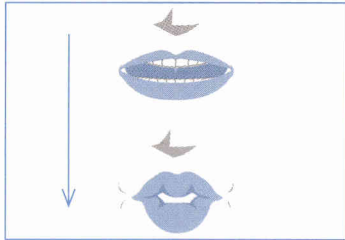
DVD [au]

-How about going **out** right **now**?

-Yeah, let's go straight to the **house**. Then we can walk **around** the **town**.

03 日本語の「イアー」に聞こえる音

[ir]



「イアー」と聞こえますが、「イアー」の「イ」は、母音 07 で学んだ「イ～エ」の中間音です。「アー」の部分は母音 05 の [a:] の音です。[i] から [r] に移行する際に、口先を若干おちょぼ口にしていくとやりやすくなるでしょう。

WORDS

CD1 31

DVD [ir]

[ir]

hear

fear

cheer

appear

sphere

DIALOGUE

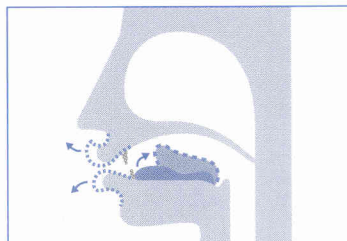
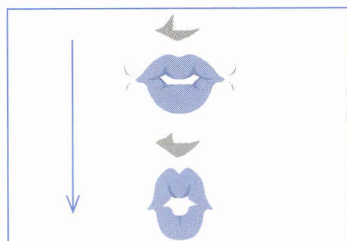
CD1 32

DVD [ir]

- My **ear** is bleeding. A toy **spear** almost **pierced** my **ear**.
- Oh, **dear**, wipe off your **tears** and come **here**.

04 日本語の「ウアー」に聞こえる音

[ur]



「ウアー」と聞こえたり、「オアー」と聞こえることもあります。「ウ」では、やはり唇を少し突き出します。「アー」の部分が [r] の音であることを意識しましょう。[r] の部分は母音05の [ɚ:] を参考にしてください。

この音ほどばらつきのあるものはないかも知れません。以下に取り上げた単語も、地域、個人によって異なり、10人のネイティブに聞けば10通りの答えが返ってくるほどです。

WORDS

CD1 33

DVD [ur]

[ur]

sure

poor

tour

moor

detour

DIALOGUE

CD1 34

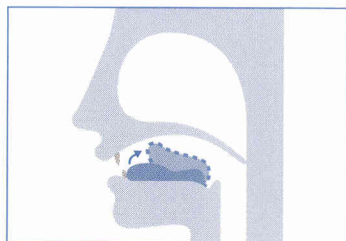
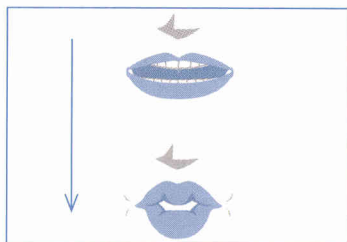
DVD [ur]

– That **poor** man had to **moor** the ship there.

– I'm **sure** that's the man from **Missouri** we met on the **tour**.

05 日本語の「エアー」に聞こえる音

[er]



「エアー」と聞こえます。ほぼ日本語の「エ」で始め、「アー」の部分、つまり [r] では日本語の「アー」よりも口の中のスペースはずっと狭くなります。その際、やはり口をおちょぼ口気味にすると発音しやすいでしょう。[r] では舌先は口蓋に付けずに若干上げます。この [r] も母音05の [e:] を確認してください。

WORDS

CD1 35

DVD [er]

[er]

bear

stare

pair

rarely

questionnaire

DIALOGUE

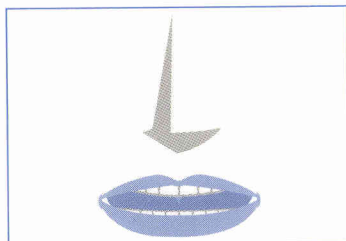
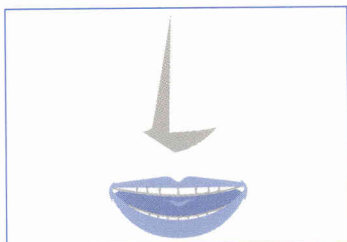
CD1 36

DVD [er]

- I saw someone **tear** my umbrella. I'll have to get it **repaired**.
-Would you **care** to **share** my umbrella for now?

06 日本語の「エイ」に聞こえる音

[ei]



「エイ」と聞こえますが、やはり [e] に若干時間をかけるつもりで発音します。日本語の「テープ」「ゲーム」「ネーム」のように音を伸ばして発音しません。英語の [i] を意識してスムーズに移行しましょう。参考までに申しますと、change は「チェンジ」より「チェンヂ」のほうが実際の発音に近くなります。

WORDS

CD1 37

DVD [ei]

[ei]

bay

stay

angel

daily

crave

DIALOGUE

CD1 38

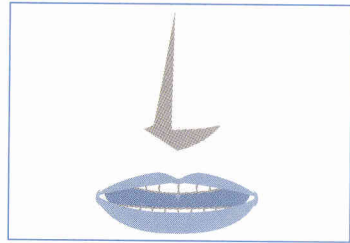
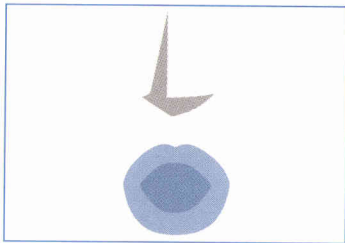
DVD [ei]

-Kate and Dave have been **playing** the **same game** over and over.

-They **lay** there and **play** the **game** all **day**. It's almost dangerous.

07 日本語の「オイ」に聞こえる音

[ɔi]



「オイ」と聞こえますが、[ɔ] の部分は舌をやや窪ませて、口と喉を日本語よりも少し開くとよいでしょう。次の08で解説する [ou] の [o] より口を若干縦に開く（顎を落とす）感じです。やはり [ɔ] にやや時間をかけるつもりでやってください。

WORDS

CD1 39

DVD [ɔi]

[ɔi]

toy

annoy

avoid

destroy

moisture

DIALOGUE

CD1 40

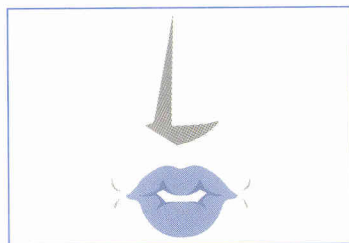
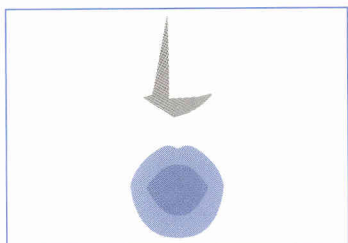
DVD [ɔi]

-How was the **oyster** **Joyce** served with **soybeans**?

-It was too **oily**. I didn't **enjoy** it. It should have been **boiled**.

08 日本語の「オー」に聞こえる音

[ou]



「オー」と聞こえますが、「オー」ではありません。オの後にウに近い音が来ます。やはり [o] に時間をかけて発音するようにします。[o] は日本語の「オ」よりもわずかに舌を窪めて、[u] は日本語の「ウ」もしくは口先を若干すぼめ気味でやるとよいでしょう。

WORDS

CD1 41

DVD [ou]

[ou]	go	boat	sold
	throat	shoulder	

DIALOGUE

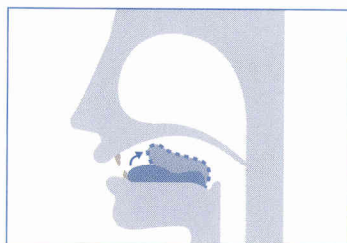
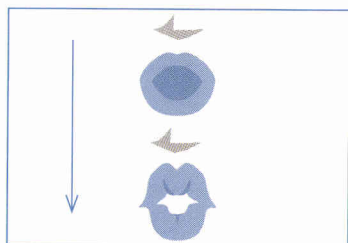
CD1 42

DVD [ou]

- Are you going for a **boat** ride on such a **cold** day?
- Oh**, I **don't know**. I guess I should do it **tomorrow**.

09 日本語の「オアー」に聞こえる音

[ɔ:r]



「オアー」と聞こえますが、モデルをよく聞いてください。[ɔ:]の部分は、やや顎を落として時間をたっぷりにとって喉の奥から発音します。[r] は日本語の「アー」にならないように注意してください。また、[r] は少しおちょぼ口にすると発音しやすいのでしたね。

WORDS

CD1 43

DVD [ɔ:r]

[ɔ:r]

more

explore

shore

wore

important

DIALOGUE

CD1 44

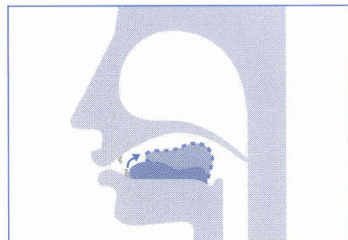
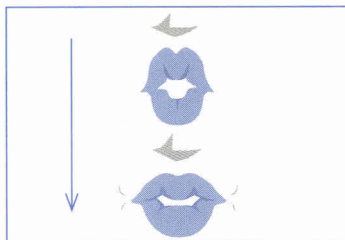
DVD [ɔ:r]

-It's boring cleaning the floor of the store. I'm getting a sore back.

-You've also been painting the door the whole morning.

10 日本語の「ユウ」に聞こえる音

[ju:]



ほぼ「ユウ」でよいのですが、日本語の「ユ」を言うよりも唇を突き出し、ややおちょぼ口のようにして、舌と口蓋との間のスペースを狭くします。その狭いスペースを息が通って、音がややきしんだ感じとなり [ju:] の音が出ます（[j] は子音のところで練習しますが、[ju:] は比較的やさしいので、ここで取り上げました）。

WORDS

CD1 45

DVD [ju:]

[ju:]	view	cute	skew
	pew	amusing	

DIALOGUE

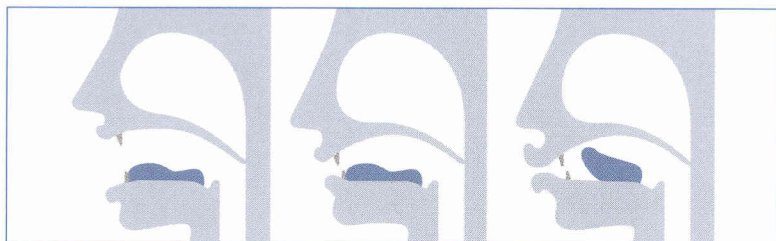
CD1 46

DVD [ju:]

- Many boys **queue** up to meet that **beautiful** musician.
- I had to **queue** up for a **few** hours.

11 日本語の「アワー」に聞こえる音

[aur]



日本語で「アワー」と言っている音です。「アウワー」と言ったほうが少し英語に近くなるでしょう。ただし、決して日本語の「ワー」ではありません。二重母音02で解説した [au] に、[r] が入った音です。[u] で口先をすぼめてから [r] に移行する際、[w] の音色が入ります。[r] では口をややおちょぼ口にして、舌尖はどこにも付けない状態にします。

WORDS

CD1 47

DVD [aur]

[aur]

bower

power

tower

cower

devour

DIALOGUE

CD1 48

DVD [aur]

-I'll put the **flowers** on **our** table and take a shower.

-But did you buy **sour** bread and **flour**?

LESSON 3

子音

CONSONANTS

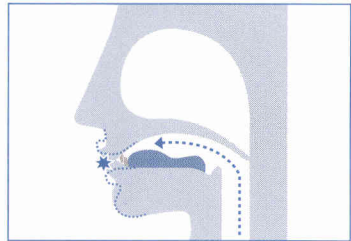
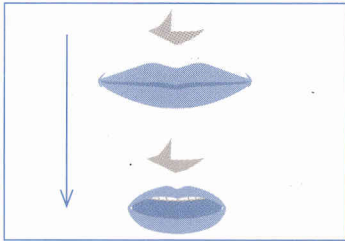
基本の最後は、子音の練習です。子音の重要性については、他の教材でもいろいろと強調されてきました。日本人の英語が通じにくい原因の1つに、子音を上手に発音できないという事実があるからです。

日本語では、子音だけが独立して発音されることがほとんどありません。つまり、わずかな例外を別にすれば、日本語の発音は必ず「母音」で終わるのです。このため、ネイティブにとって日本人の英語が非常に理解しづらいものになっています。この現象から抜け出すためにも、子音の練習をしっかりとしていく必要があります。

ここでの子音に特化した練習では、子音を大げさに発音してください。歯切れのよい子音をモノにすることができます。

01 日本語の「プ」、「ブ」に聞こえる音

[p], [b]



どちらも上唇と下唇を閉じて息を堰止めた状態から一気に破裂させて出す音です。[p] は息だけで、声は出しません（これを無声音と言います）。[b] は声を出して発音します（これを有声音と言います）。ただし、job, cab, stop, topのように子音で終わる場合、自然なスピードの英語では軽い破裂はあっても、必ずしも強く破裂させません（場合によっては口を閉じるだけということもあります）。

WORDS

CD1 49

DVD [p],[b]

[p]

pot

pat

politics

[b]

bat

bead

balloon

DIALOGUE

CD1 50

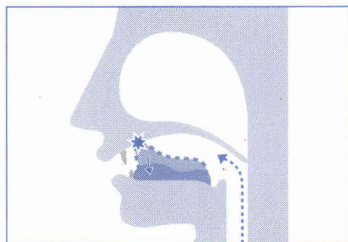
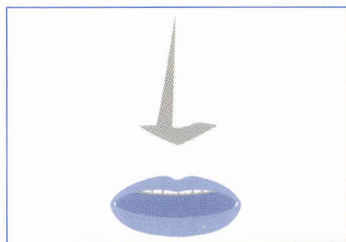
DVD [p],[b]

-I left my paperback in your plastic bag. Can I go back and get it?

-Can you bring my bag, too? Also, get Patti's package from the bathroom.

02 日本語の「トゥ」、「ドウ」に聞こえる音

[t], [d]



舌先を上の前歯の歯茎に付けて、舌を離す際に蹴って破裂させる感じですが、[t]は無声音、[d]は有声音です。

やはり自然な会話では、cut, headのように、母音の前に来ないものは必ずしも強く破裂させません。舌を口蓋に当てるだけという場合もあります。

WORDS

CD1 51

DVD [t],[d]

[t]	tea	toy	tutor
[d]	day	drive	diamond

DIALOGUE

CD1 52

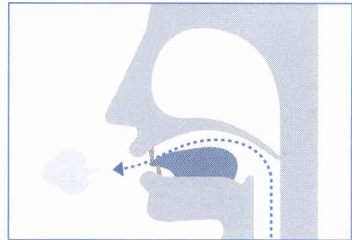
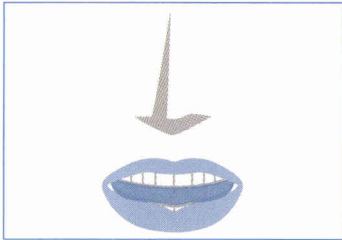
DVD [t],[d]

-I see **Ted** teaching his **students** in the **garden**.

-Yes. They will return **to the studio** by **ten** though.

03 日本語の「ス」、「ズ」に聞こえる音

[θ], [ð]



どちらも舌を上下の前歯の間に置き、上の前歯に摩擦させて出す音です。[θ]は無声音で、[ð]は有声音です。「上下の前歯の間に舌を挟むのは間違い」と主張している人もいますが、少なくとも最初は挟むことをお勧めします。結果として、慣れてきて舌をそれ程しっかり挟まなくてもできるようになれば、それでよいと思います。

WORDS

CD1 53

DVD [θ], [ð]

[θ]

thin

path

thoroughly

[ð]

these

breathe

lathe

DIALOGUE

CD1 54

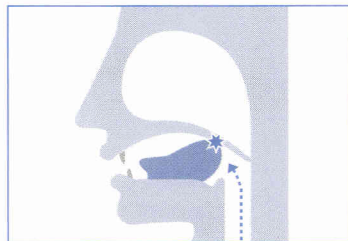
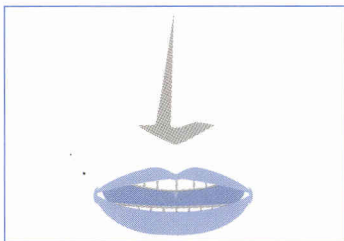
DVD [θ], [ð]

—I think **this** is a good time to tell **the truth**. What did **Seth** do in **the bathroom**?

—I told you **the whole truth**. It was **another** student smoking in **the bathroom**. **Seth** wasn't even **there**.

04 日本語の「ク」、「グ」に聞こえる音

[k], [g]



[k] は母音の前では、だいたい日本語のカ行で大丈夫です。たとえば car は「カ」で始めて結構です。ただし、日本語のカ行より舌の後ろを口蓋の奥につけ、やや強めに破裂させるということは意識しましょう。luck のように [k] が最後に来る場合は、[ku] とせずに [k] を喉の奥で軽く破裂させるだけです。プラスチックが「パキッ」と割れてヒビが入る感じと言えばわかりやすいでしょうか。[k] は無声音で、[g] は有声音です。

WORDS

CD1 55

DVD [k],[g]

[k]	cat	lake	stock
[g]	go	girl	thug

DIALOGUE

CD1 56

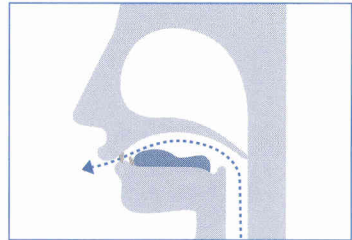
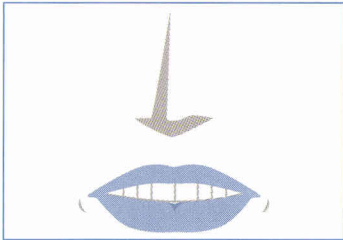
DVD [k],[g]

-I saw my dog playing with some kids kicking a can a minute ago. Where is my dog now?

-I think your dog is with more kids kicking a soccer ball on the playground.

05 日本語の「フ」、「ブ」に聞こえる音

[f], [v]



両方とも下唇を上の前歯の先端に軽く当て、その摩擦で出す音です。[f] は息だけの無声音で、[v] は有声音です。

WORDS

CD1 57

DVD [f],[v]

[f]

food

father

enough

[v]

very

vase

revolve

DIALOGUE

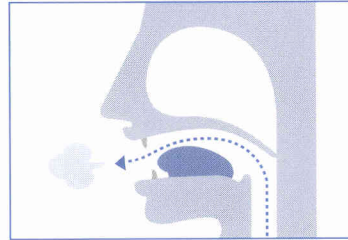
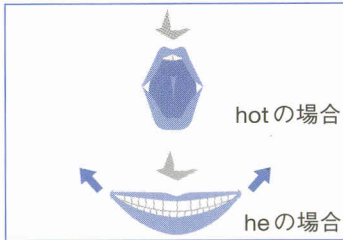
CD1 58

DVD [f],[v]

- That **football** player cut his **finger**. It looks **very** painful.
- Those **football** players can be **very** **rough** and **violent**.

06 日本語の「フ」に聞こえる音

[h]



これは単に息の音です。[h] の口の形は、次に来る母音次第となります。練習時にはより大きさに息を強めに吐くようにするとよいでしょう。

WORDS

CD1 59

DVD [h]

[h]	hot	health	hide
	harbor	hindrance	

DIALOGUE

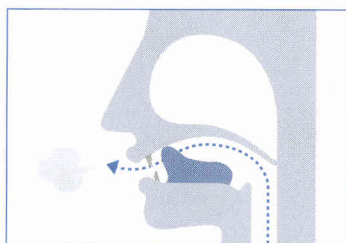
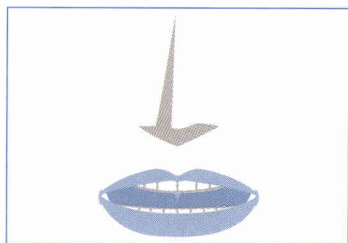
CD1 60

DVD [h]

- Hey, have you seen Henry lately? I wonder how he is doing.
 -He gets a headache a lot these days. He should go to a hospital and have a checkup.

07 日本語の「ル」に聞こえる音

[ɪ]



母音の前にある [ɪ] は、舌先を上前歯の歯茎に軽く押し付けます。次に来る音が子音の場合 (solve, told など) や、語の最後に来る場合 (deal, smile など) は舌先を上歯茎に付けても結構ですが、軽くわずかに上げるだけでOKです。舌をほとんど動かさなくても発音できます。たとえば、deal, smile はネイティブを参考にしたうえで、[di:ɔ] 又は [di:ユ]、[smaiɔ] 又は [smaiユ] と発音しても十分通じますし、練習していけば自然な英語になっていきます。

WORDS CD1 61 DVD [ɪ]

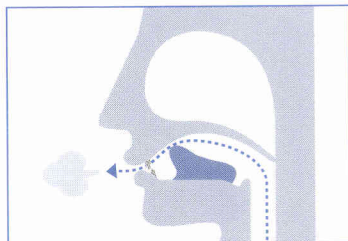
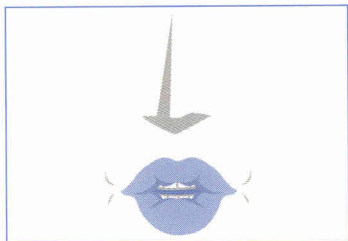
[ɪ]	light	led	lounge
	smile	involve	

DIALOGUE CD1 62 DVD [ɪ]

- We have to solve this problem.
- Well, let's listen to what the leader has to say.
- Right. We can't leave the hall unless and until we come up with a solution.

08 日本語の「ル」に聞こえる音

[r]



よく言われるように「舌をカエルのように奥に向かって巻く」必要はなく（やってもよいですが）、舌先を軽く上げるだけで十分です。舌先はどこにも付きません。自然と舌の奥両側が上奥歯の両側に触れます。舌先を軽く上げるか、カエルのようにするかは、各自研究してやりやすいほうを使えばよいでしょう。最初のうちは、唇を軽くすぼめておちょぼ口にするとやりやすいでしょう。もうお気づきでしょうが、発音の仕方は母音05の [a:] と同じです。

WORDS

CD1 63

DVD [r]

[r]	rice	read	rude
	bring	treat	

DIALOGUE

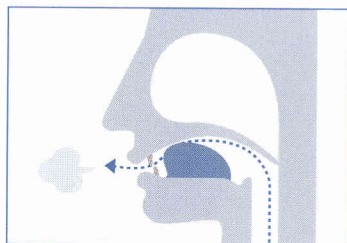
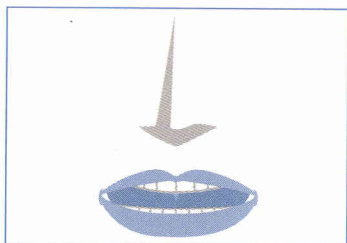
CD1 64

DVD [r]

- Turn **right**. Yes, **right** here. See the **red** shop on the **road**?
- Is that where you bought the **ring** you **brought** to the **laboratory**?

09 日本語の「ス」、「ズ」に聞こえる音

[s], [z]



舌と口蓋との間の狭いスペースを息が通ることによる音です。[s] を発音する際、口はほとんど開けず舌先を上げて息の出るスペースを狭めます。舌先は上の歯や歯茎に付きません。舌の両側は上奥歯に触れて構いません。[s] は声を出さず、ゴムボールに小さな穴が開き、そこから「スー」と空気が抜けるような音です。[z] は [s] の有声音です。

WORDS

CD1 65

DVD [s],[z]

[s]

sea

smooth

case

[z]

zoom

nose

zigzag

DIALOGUE

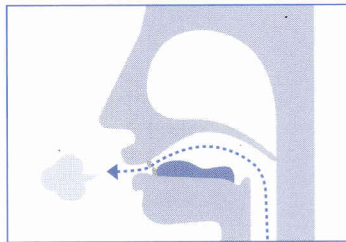
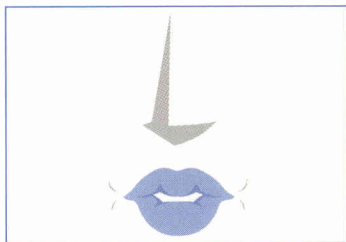
CD1 66

DVD [s],[z]

- It looks almost like the zebras in the zoo are practicing Zen.
-Yes, it is amazing. But they are just snoozing away.

10 日本語の「ウ」に聞こえる音

[w]



口笛を吹くときの口の形です。かなり唇をすぼめて練習します。次に来る母音に移行する際、すぼめた唇の緊張をゆるめながら発音します。

WORDS

CD1 67

DVD [w]

[w]	we	wood	woman
	wild	sweep *	

DIALOGUE

CD1 68

DVD [w]

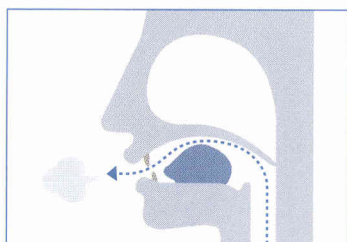
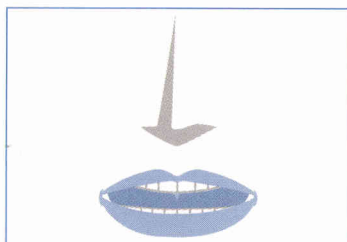
–I love this **warm** winter. Isn't it **wonderful**?

–Well, I'm **wondering** why it's so **warm**. I'm a bit **worried**.

*sweepのsとwの間にuを入れません。sを発音したらそのまま唇を丸く細めて、引っ張りながらweeと言います。難しい場合は、唇をおちよぼ口の形にしてそのままsを発音してみてください。この形でsを発音している間に、唇をすぼめてwの体制に入ってweepと一気に発音します。「s+w」は、LESSON 5でも練習します。

11 日本語の「イ」に聞こえる音

[j]



日本語の「ヤ」「ユ」「ヨ」の出だしの音をきしませます。yard, you, yokeなどの [j] は難しくないでしょう。[ji:] や [ji], たとえば yield, yearなどは難しいかもしれません。いずれにしても、舌の中央部を口蓋に当たるか当たらないかまで上げます。舌中央部両端は口蓋に当てて構いません。すると非常に狭いスペースができます。そこをこするようにして息を出します。唇を少し横に引っ張るとやりやすいかもしれません。日本語の「イ」が、きしんだ感じ です。

WORDS

CD1 69

DVD [j]

[j]

yes

yolk

yellow

yeast

beyond

DIALOGUE

CD1 70

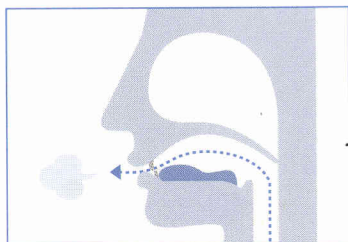
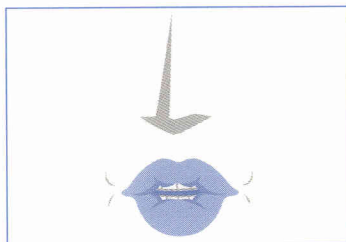
DVD [j]

-Have you been teaching Yiddish for many years?

-Years and years. Your sister was taking my Yiddish class last year.

12 日本語の「シュ」、「ジュ」に聞こえる音

[ʃ], [ʒ]



[ʃ] は人差し指を口に付け「シー！ 静かにしなさい」というときの「シー！」の音に似ています。声は出さずに息だけの無声音です。練習時には、唇を大きなおちょぼ口のようにするとよいでしょう。その際、上下の前歯には若干の隙間をつくります（上下の前歯をしっかりと噛み合わせてしまう人がときどきいますが、それではこの音を出すのは難しいでしょう）。舌は、意識せずに自然に寝かしておきましょう。[ʒ] は [ʃ] の有声音です。

WORDS CD1 71 DVD [ʃ],[ʒ]

[ʃ]

sheep

shine

shoot

[ʒ]

vision

measure

invasion

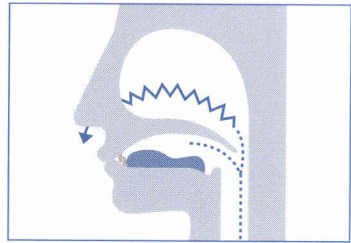
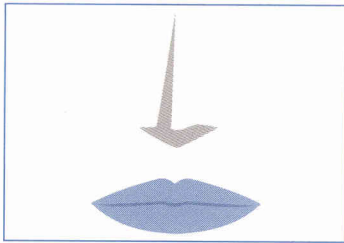
DIALOGUE CD1 72 DVD [ʃ],[ʒ]

–She has many **shiny shoes**. I'm **sure** those **shoes** are her **treasures**.

–Yes, it's my **pleasure** to see her go **shopping** at **leisure**. You can't **measure** how much **she's** spent.

13 日本語の「ム」に聞こえる音

[m]



上唇と下唇を閉じた状態で声を出すハミングの音です。練習する際は、[m] を少し長めに発音するようにしてください。

WORDS

CD1 73

DVD [m]

[m]

mud

moon

meat

thumb

gymnasium

DIALOGUE

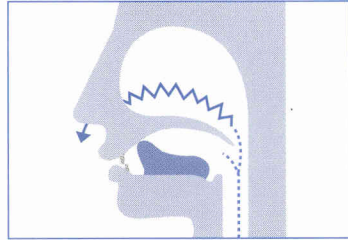
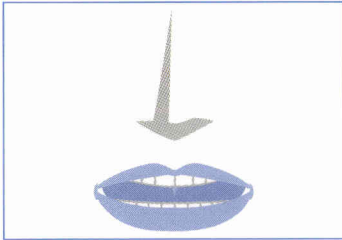
CD1 74

DVD [m]

-Oh, **man**, I **made** a bad **mistake**. This will **make** my **mom** **mad**.
-**Calm** down. That's a **common** **mistake**. Your **mom** wouldn't **mind**.

14 日本語の「ン」に聞こえる音

[n]



舌の前部分が口蓋にぴったり付いて出る音です。「ン」というよりは、「ヌ」に近い音です。ただし、on the beachのように次にthが来る場合、舌を律儀に口蓋に付ける必要はありません。それをやっていると、スムーズに話せません。onを発音する際、oからnに移ろうとして舌を上げたら、nの位置に行かずにthの準備のため舌を少し突き出して上の前歯に当ててnを発音します。そして、そのまま舌を動かさずにthを発音します。

WORDS

CD1 75

DVD [n]

[n]	no	on	neat
	noon	Sunday	

DIALOGUE

CD1 76

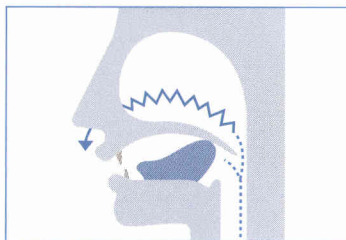
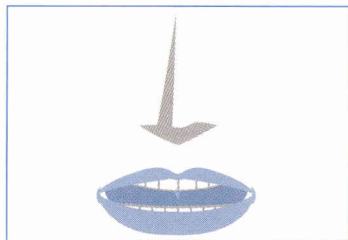
DVD [n]

- Did you **sneak** out of the **inn** and go to the beach last **night**?
 -Yeah, but **no one** was **on** the beach. It was **no fun**.

*参考までに、on the beachのon theでは、theが直前のnの影響を受けてonna beachのように発音されることもあります。LESSON8「発音の変化」でまた練習します。

15 日本語の「ング」に聞こえる音

[ŋ]



舌の奥部を口の奥の上顎（軟口蓋）に付けて、声は鼻から抜けま
す。この音に匹敵する日本語の音は、「天狗」の「ん」、「銀行」の
「ん」だ、と昔どこかで聞いたことがあります。鋭い観察だと思
います。モデルを参考にしたうえで、この「ん」はそのままsing,
king, tongueなどに用いてよいでしょう。そして、～ngの最後で
「グ」とハッキリと発音しないように注意しましょう。

WORDS CD1 77 DVD [ŋ]

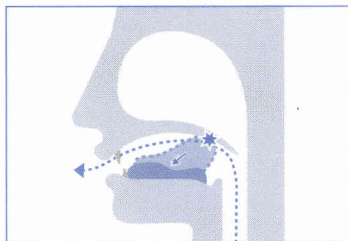
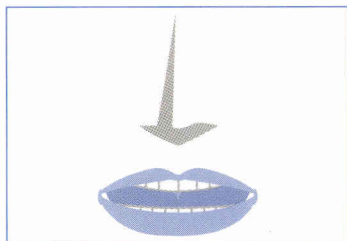
[ŋ]	ring	sling	tongue
	being	hanger	

DIALOGUE CD1 78 DVD [ŋ]

- See the lady **bowing** to the king?
– Yes, she is a great **singer**. I tried to **sing** her **song** but it was hard.

16 日本語の「ング」に聞こえる音

[ŋg]



[ŋ] に [g] が付いた音です。たとえば、fingerのngerを発音するには、まず、15で練習した [ŋ] を発音して、その直後に軟口蓋を舌の奥上部で蹴るようにして破裂させて、[g] を発音します。

WORDS

CD1 79

DVD [ŋg]

[ŋg]	finger	English	single
	jungle	younger	

DIALOGUE

CD1 80

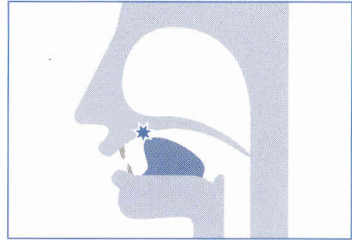
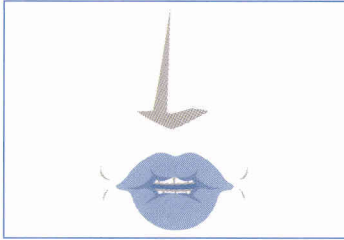
DVD [ŋg]

–The boy devouring a mango must be very hungry. He looks almost angry.

–He was tapping the desk with his fingers to show his hunger and anger.

17 日本語の「チ」に聞こえる音

[tʃ]



舌を口蓋にしっかり付けておいて破裂させる感じで舌を離します。その際、舌で口蓋を摩擦させる感じで行います。日本語で「お茶」というときの「チ」に近い無声音です。日本語より心持ち息を強くするとよいでしょう。「チェッ！」と強く言うときの「チ」のようにパワーの入った音と言えればわかりやすいかもしれません。息だけで声は出しません。beachなど、語の最後に来る [tʃ] に [i] などの母音を付けずに [tʃ] で破裂させたまま終わります。

WORDS

CD1

81

DVD

[tʃ]

[tʃ]

check

choose

touch

beach

woodchuck

DIALOGUE

CD1

82

DVD

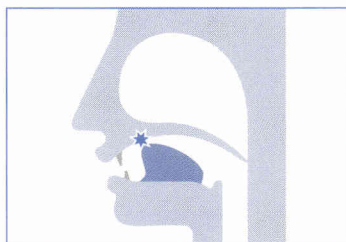
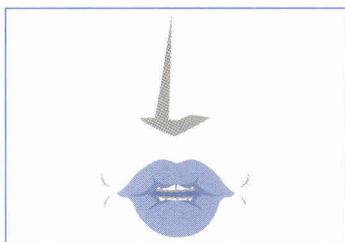
[tʃ]

-The teacher caught Chelsea cheating on the Chinese test.
Her mom is all choked up.

-I thought she was such an honest child, going to church every Sunday.

18 日本語の「ジ」に聞こえる音

[dʒ]



この音も舌を口蓋にしっかり付けておいて破裂させ、急に離します。その際、摩擦しながら破裂させる感じで発音します。[dʒ] は [tʃ] の有声音なので、発音しにくい場合は [tʃ] を何度も練習してから、この音を出すようにしてもよいでしょう。日本語の「ヂ」がこの音に近いですが、息も、摩擦、破裂の度合いも日本語より強いと思ってください。[dʒ] がよっぽど言いにくければ、[tʃ] でしばらく代用して徐々に慣れていくという手もあります。

WORDS

CD1 83

DVD [dʒ]

[dʒ]

jump

jade

join

urge

judge

DIALOGUE

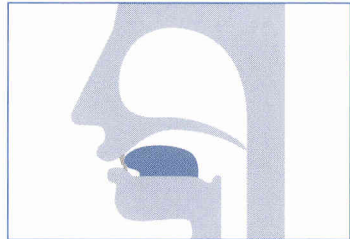
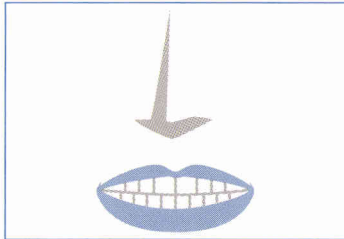
CD1 84

DVD [dʒ]

- Check that **j**unior high school kid from **J**apan. He has such a **h**uge **j**ug!
- He is not drinking **g**in, is he?
- No, he is **j**ust drinking orange **j**uice.

19 日本語の「ツ」に聞こえる音

[ts]



この音を出す簡単な方法は、「ツ」を言うつもりで練習することです。ただし、母音のuを最後に入れてtsuとせずに、歯切れよくtsと発音してください。発音し終わった瞬間、プツツと音が途切れる感じがします。具体的には、上と下の前歯をしっかりと合わせて閉じます。その状態で舌尖をぴったりと歯茎周辺に当てて密閉状態にして発音するとこの音が出ます。閉じた上下の前歯の裏に舌をピタッとつけてもよいでしょう。[ts]は無声音です。

WORDS

CD1 85

DVD [ts]

[ts]	cuts	writes	gets
	sites	bets	

DIALOGUE

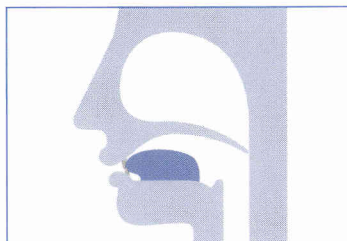
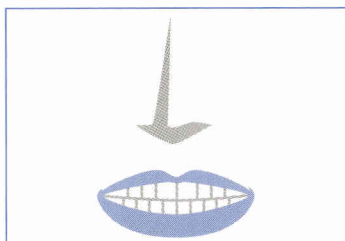
CD1 86

DVD [ts]

- Let's go and pick eggplants. Get your carts.
- We also need some pots and sheets for other plants.

20 日本語の「ズ」に聞こえる音

[dz]



この音は [ts] の有声音です。やはり、発音し終わった瞬間ブツッと音が途切れる感じがします。19の [ts] と同様に上と下の前歯をしっかりと合わせて閉じます。その状態で舌先をぴったりと歯茎周辺に当てて密閉状態にして発音するとこの音が出ます。有声音の [dz] が上手くできない場合は、しばらく [ts] で代用するとよいかもしれません。たとえば cards の練習では、何度か carts と言って、慣れてきたら ts を ds にしていきます。

WORDS

CD1 87

DVD [dz]

[dz]	cards	rides	beds
	brides	sides	

DIALOGUE

CD1 88

DVD [dz]

- Do you know how many **beds** he **needs** for the **bands**?
 -He **needs** ten **beds**. He also **needs** three **tour-guides** to take the **bands** to the **rides**.

発声と呼吸 〈その1〉

皆さんの周りに「発音はちゃんとしているようなのだが、どうも日本語っぽい英語」を話しているという人はいませんか？

それは発声の問題かもしれません。私たち日本人が話す英語は、ややもすると日本語の声質がそのまま英語に乗ったような、頭の上のほうから発せられている英語のようで、英米人のような深みのある声というか張りのある英語声で話される英語ではないようです。

ネイティブの話す英語をよく聞いていると、声が鼻を中心とした下の部分（低く深い声の人は胸やお腹）から響いてくるような感じがします。とくに深い声をした男性は、お腹が発電機のようになっていて、まるで胸がアンプのように共鳴して上半身全体で音を発しているような印象さえ受けます。私たちが少しでもネイティブのような深みのある声質で英語を話すためには、息を吐くときにお腹をゆっくりとへこませ、吸うときに膨らませたりする「腹式呼吸」で英語の練習をすると良いようです。

シャドーイングをするときは声を出さずに意識をみぞおちからおへその部分に持っていき、あたかもその部分で話しているようにお腹をぺこぺこさせながら練習してみます。声を出して練習する時には息を吐きながらお腹を凹ませていくようにして発声します。吐く息を意識しながらやります。ときには、お腹から笑うような感じでシャドーしたり、ボールがお腹に当たったときに腹筋を締めて発声したり、もしくは逆に、全身をリラックスさせて仰向けになって「あ～疲れた～」とか「あ～良い気持ちだ～」と温泉にでもつかっている感じで「はあ～」とお腹からゆったり発声する練習など、色々と試してみてください。

LESSON 4

発音を解剖する

Let's Break It Down

このレッスンでは、日本人の苦手とする子音を一つひとつ切り離して発音していきます。日本人の英語が通じにくい原因の1つとして、子音が上手く発音できないことは、LESSON 3で触れました。日本語とは違い、英語では子音で終わるのは普通で、子音の連続も頻繁に起こります。

カタカナ英語から脱却して通じる英語を話すためには、ここでのエクササイズを徹底して行う必要があります。

日本語のクセを英語向きに矯正しましょう

だいぶ昔に、アメリカ人2人、日本人1人、そして私とで映画について話題にしていたときのエピソードです。会話の中でその日本人が「“ディスク・ロジャー”という映画があるけど、ディスク・ロジャーってどんな意味ですか？」と質問しました。しかし、私を含めて「ディスク・ロジャー」という英語(?)がわかる人は誰もいませんでした。

私はもちろん日本人ですので、カタカナからなんとか推論しようと頑張ったのですが、せいぜい“Disc Roger”という言葉しか頭に浮かばず、意味不明でした。

その後、“DISCLOSURE”という映画の題名を目にして、「ああ、あれは“DISCLOSURE”だったのか！」と思ったものでした。そのカタカナ発音からは、まさか彼が“DISCLOSURE”という英語を言おうとしているとは想像もつきませんでした。2人のアメリカ人にとっても、それが謎の言葉であった訳です。私の耳に届いた「DISUKU RO~JA~」と“DISCLOSURE”の間にはあまりにも長い距離がありました。

この例で通じない原因は、まず、**日本語のクセで1文字1文字の最後に母音が付いてしまっていることが挙げられます**。そして、それに伴って、**不要なポーズ**（「ディスク・ロジャー」の「ク」の直後の短いポーズ）**が入ってしまい、英語のリズムで聞いている人間には2つ以上の単語に聞こえてしまう**のです。これではもう英語ではありません。

ここで扱うレッスンは、人前で話す人に大変有益なものです。練習を積むほど、切れ味のよい通じる発音が身についていきます。決して慌てずにゆっくりと1音ずつ練習を続けましょう。はじめに単語で練習して感覚をつかんでいきます。発音記号は、強勢のある箇所（第1アクセント）を青色にしています。

DVD Let's warm up

s-ch-oo-l → school

s-t-r-ee-t → street

th-r-i-ll → thrill

DVD Let's Practice

1

(a) Sh-e s-e-ll-s s-ea-sh-e-ll-s b-y th-e s-ea-sh-ore.

ʃ-i:

s-e-l-z

s-i:-ʃ-e-l-z

b-ai

ð-ə

s-i:-ʃ-ɔ:r

(b) She sells seashells by the seashore.

このエクササイズでは“s”（無声音と有声音）と“sh”の発音を丁寧に練習します。

2

(a) C-ae-s-ar s-i-p-s h-i-s s-n-i-f-t-er.

s-i:-z-ə

s-i-p-s

h-i-z

s-n-i-f-t-ə

(b) Caesar sips his snifter.

ここでもさらに“s”の練習をします。私たち日本人の苦手とする発音と言うと、“i”と“r”が挙げられますが、“s”の発音も私たちには意外に難しいものです。

3

(a) S-t-r-a-n-ge s-t-r-a-t-e-g-i-c s-t-a-t-i-s-t-i-c-s

s-t-r-ei-n-dʒ

s-t-r-ə-t-i:-dʒ-i-k

s-t-ə-t-i-s-t-i-k-s

(b) Strange strategic statistics

“s”の練習はまだ続きます。ここでもたっぷり練習してください。ただ、このエクササイズでは、“s”の発音がさらに難しいと感じられるかもしれません。それは、“s”の直後に子音の“t”が顔を出しているからです。日本人が苦手としている「子音+子音」のよい練習になります。子音と子音の間に母音を入れないように頑張ってください。strangeがsutorangeなどとならないようにします。

4

(a) **Th-i-n b-u-t th-i-ck s-i-l-v-er th-i-m-b-le**

θ-i-n

b-ə-t

θ-i-k

s-i-l-v-ə

θ-i-m-b-le

(b) **Thin but thick silver thimble**

ここでは“th”の練習をします。しっかりと“th”の舌の位置に気をつけながら練習しましょう。

5

(a) **Th-e n-i-n-j-a a-n-d th-e n-a-nn-y kn-ea-d n-oo-d-le-s.**

ð-ə

n-i-n-dʒ-ə

ə-n-d

ð-ə

n-æ-n-i

n-i:d

n-u:d-l-z

(b) **The ninja and the nanny knead noodles.**

ここでの練習は“n”です。この“n”は“l”や“r”ほど話題になりませんが、そうやさしい発音ではないと思います。DVDではth-e n-a-nn-yのthが[θ]と発音されていますが、本来は[ð]です。そのまま[θ]で練習して問題ありません。

LESSON 5

発音しにくい単語の練習

Difficult Words

このレッスンでは、私たちにとって発音の難しいと思われる単語を集中して練習します。単語によっては舌が思うように回らず、フラストレーションが溜まるかもしれません。そんなときこそ「超低速メソッド」が効果を発揮します。焦らずにモデルの発音に合わせて、ゆったりと丁寧に発音していきましょう。

焦ってノーマルスピードで練習をする必要はありません。超低速を続けていけば、自然と普通の速さで発音できるようになっていきます。練習を重ねていき、ここで扱っている単語を自在に発音できるようになると、結果としてノーマルスピードでも正確に発音できるようになるのです。たいていの単語などは、「楽勝だ!」と感じるようになるでしょう。

DVD 発音しにくい単語 A

ruthless, relate, sacred, drilling, throttle,
lollypop, gorilla, world, rivalry, rarity



いかがでしたか？ 短くても言いにくい単語もありましたね。

DVD 発音しにくい単語 B

revolver, sterility, religious, cavalier,
merrily, garrulous, luxurious, January,
February, liberal

少し長めのものでしたが、ゆっくりでOKです。心配しないで！



DVD 発音しにくい単語 C

sweep, swoop, swim, swing, swindle, swan,
swamped

LESSON 3でお約束した「s + w」に焦点を当てた練習をしましょう。sとwの間に [u] を入れないように！



DVD 発音しにくい単語 D

incalculable 'ferroconcrete, parenthesis,
withdrawal, meteorologist,
anthropologist, disciplinary, fluorescent,
irretrievable, inconsiderable

お疲れ様でした。どうでしたか？ 舌が曲がりくねってしまうような単語もありましたね。でも、これもすごくよい訓練になります。

毎日すべてをやる必要はありませんので、その時その時に気になった単語をゆっくりと丁寧に練習してみましょう。

発声と呼吸 〈その2〉

68ページのコラムで、「発音は正確のようだが英語らしく聞こえない」場合について触れましたが、反対に英語らしく聞こえる発声なのに意外に英語の音になっていなかったり、通じていない場合もあります。英語の音に慣れていない日本人の耳には「すごく外人っぽい」、「カッコイイ」と感じられても、発音の基本ができていないと、いわゆる「英語もどき」でしかなく、通じないこともあります。素人の日本人はごまかせても、ネイティブは騙されないのですね。

ですので、発声を意識することは大切ですが、発声のことだけに熱心に取り組むのではなく、地味な発音練習を積まれていくことをお勧めします。

ついでながら、ネイティブの中にも声が高く発声の浅い人はいます。そのことから発声がすべてではないことがわかると思います。それでも、英米では「低めの深い声が良い」とされているのは事実です。

正直なところ、私も呼吸法・発声に関してはまだまだ模索中です。ですので、ここで書いたことはあくまでも参考程度にしていただき、よろしかったら試してください。

LESSON 6

負荷をかけた発音練習

Hard Training For Your Tongue

ここでは少し変わった練習をします。皆さんは「鉄下駄」をご存じでしょうか？ 文字通り、鉄で作られた下駄です。空手などの武道で技を磨き上げるために重い鉄下駄を履いたり、おもりを付けて蹴りの練習をすることがあります。

足に鉄下駄を付けたまま蹴りの練習をした後に、素足で蹴りをしてみるとなんと足が軽く、蹴りのスピードも速くなっています。

このレッスンでは、皆さんの口に“鉄下駄”を付けていただきます。力を入れながら舌を不自然な位置に置き、邪魔に感じられるような言いづらい状態で練習をしていただきます。気が緩むと舌も緩んでしまいますが、各練習文を指示通りに読み、舌に力を入れ続けて練習してください。

A

すべての音を極端な“th”の発音で読みます

舌を常に上下の歯の間に置いたまま文を読んでください。舌は口の外に極限まで出します。“s”であろうと“w”であろうとすべてを“th”で読みます。この練習をすることで、thのポジションを舌が覚えるという効果もあります。

DVD 負荷練習A

Thanks for the birthday present.
 Sam thinks it's not a good idea.
 Think twice about it.
 One night he was walking along the path
 alone.

B

舌を常に“l”のポジションにして文を読みます

舌先を上口の蓋にピタッと付けたまま、離さずに全文を読みます。子音も母音もすべて舌を“l”のポジションにしておきます。この練習を続けると、私たちが苦手とする“l”の発音が随分と楽になります。

DVD 負荷練習B

Lee left a little liver for Lorie.
 Linda lived in London a long time ago.
 Are you going to the party tonight?

C

舌を常に“n”のポジションにして文を読みます

舌はできるだけ広い部分を口蓋にぴったり付けたまま練習します。この練習でも、子音であろうと母音であろうと舌は常に“n”のポジションにしておきます。“n”の発音は実は日本人には難しいのです。このトレーニングをしっかりとやって“n”を克服しましょう。

DVD 負荷練習C

None of those nuns noticed the nice Nike shoes.

There were many new members in the hall.

There is a rainy season between spring and summer.

たかが発音、されど発音〈その1〉

これまで本書でも、私の通じなかった英語や、私が見聞きした「通じない発音」などについて、いくつか触れてきました。ここでは、日本語の例も含めていくつか紹介したいと思います。まずは、私の通訳現場から紹介しましょう。

日本文化（仏教、精進料理など）についてのレクチャーで、10人ほどのアメリカ人が1人の日本人講師から説明を受けていたときのお話です。質疑応答もはさんで、たいへん和やかな雰囲気が進んでいました。

その中で日本語を多少話せるアメリカ人が「あなたはオボウサンですか？」と質問したところ、その講師（お坊さんではない）が「ええ、私は小川です」と答えるという場面がありました。そのアメリカ人の「オボウサン」の発音が不明瞭で、「オガワサン」と聞こえても不思議ではありませんでした（尋ねられた当人が「小川さん」なら尚更です）。

そのアメリカ人は仲間に“He is a priest.”と説明したので、私はその後の流れを考えるとマズイと判断し、その場で訂正しました。問題が生じないと判断すれば、私も何も言わず放っておいたかもしれません。

LESSON 7

同じように聞こえる発音を 区別する

Difficult To Distinguish Sounds

このレッスンでは、私たち日本人には区別しにくい発音に焦点を当てています。十分に練習することで、英語特有の音を比較的楽に聞き分けられるようになり、リスニング力も自然とアップします。また、それらを思うままに発音できるようになれば、もっと通じる英語を話せるようになります。別な言い方をすれば、このレッスンに出てくる一連の単語を区別して発音できなければ、会話が成立しないか、もしくはお互いが誤解したまま会話が終わってしまう危険性があります。地味な練習ですが、発音改善の点でも、リスニング上達の点でも非常に大切なものです。

ここでは、同じような発音をセンテンスでも練習していただきます。単語のみでは区別できても、センテンスの中に埋められると、その違いを聞き取ることが難しくなるかもしれません。

01 「ア」に聞こえる音

[a]

比較的日本語の「ア」に近い音です。口を大きめに開けて舌の中央を窪ませて喉の奥から音を出します (22ページ)。

WORDS

CD1

89

DVD

[a]&[ʌ]

hot

cop

shot

doll

collar

[ʌ]

口をポカンとして軽く開けます。「オ」の音質が少し入ってきて、口の開け具合も「ア」と比べてより小さいです (24ページ)。

hut

cup

shut

dull

color

SENTENCES

CD1

90

DVD

[a]&[ʌ]

Get a cop.

I shot it.

I like this collar.

This is such a hot hut.

I don't like this dull doll.

Get a cup.

I shut it.

I like this color.

02 「ア」に聞こえる音

[ɑ]

日本語の「ア」に近い音になります (22 ページ)。

[æ]

「エ」の音色が入り込んでいます。口を逆三角形にして「エ」と発音します (23 ページ)。

WORDS

CD1 91

DVD [ɑ]&[æ]

mop

shock

top

cop

spot

map

shack

tap

cap

spat

SENTENCES

CD1 92

DVD [ɑ]&[æ]

I'm going to buy this mop.

It's a shock.

The topping is annoying.

I was talking about that cop with a cap.

He spat on the spot.

I'm going to buy this map.

It's a shack.

The tapping is annoying.

03 「ア」に聞こえる音

[æ]

「エ」の音色が入っていることを意識して発音します (23ページ)。

[ʌ]

「オ」の音が入り込んでいるということを意識して発音します (24ページ)。

WORDS

CD1 93

DVD [æ]&[ʌ]

mad

mud

bag

bug

hatch

hutch

lamp

lump

last

lust

SENTENCES

CD1 94

DVD [æ]&[ʌ]

I hate the bag.

I hate the bug.

Such a small hatch!

Such a small hutch!

I want the lamp.

I want the lump.

He must be mad playing in the mud.

This kind of lust won't last long.

04 「オー」に聞こえる音

[ou]

「オ」に近い音で始まり、「ウ」のような音で終わるように発音します (43ページ)。

[ɔ:]

「オ」を深くしたような音で、舌と顎を下げることを意識して発音します。「ア」の音色もやや入ってきます (33ページ)。

WORDS

CD1 95

DVD [ou]&[ɔ:]

low

toll

bowl

coat

boat

law

tall

ball

caught

bought

*[ɔ:] の代わりに [a] で発音するアメリカ人も数多くいます。

SENTENCES

CD1 96

DVD [ou]&[ɔ:]

That's a low standard.

That's a tollgate.

He found the bowl.

My coat got caught on the nail.

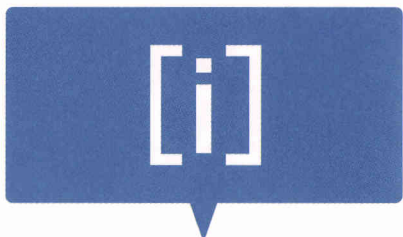
They bought that boat.

That's a law standard.

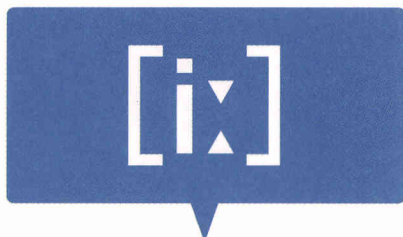
That's a tall gate.

He found the ball.

05 「イ」、「イー」に聞こえる音



「イ」と「エ」の間のような音を出します (28 ページ)。



日本語の「イー」をさらに口を横に引っ張って出すような鋭い音です (29 ページ)。

WORDS

CD1 97

DVD [i] & [i:]

ship	sheep
bit	beat
live	leave
knit	neat
sit	seat

* [i:] は単に [i] を伸ばしたものではありません。[i:] は日本語の「イー」をさらに口を横に引っ張って出すような鋭い音であるのに対して、[i] のほうは前にも申し上げましたが、「イ」と「エ」の間のような音です。

SENTENCES

CD1 98

DVD [i] & [i:]

They are selling a ship.

They are selling a sheep.

I'm going to live here.

I'm going to leave here.

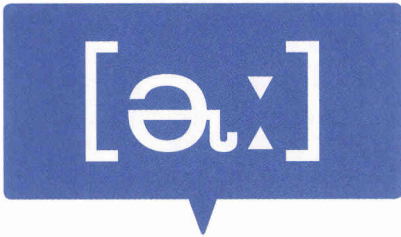
I love the mitt.

I love the meat.

Tell us a little bit about how you beat your opponent.

I don't know how you can knit it so neatly.

06 「アー」に聞こえる音



舌先を少し上げ、口内のどこにも付けない状態でこもったような音を出します (26ページ)。



最初の音 [a] では、舌の中央部はへこませます。[r] は [ə:] と同じ発音方法です (25ページ)。

WORDS

CD2 01

DVD [ə:]&[ar]

hurt

perk

heard

curd

fur

burn

heart

park

hard

card

far

barn

SENTENCES

CD2 02

DVD [ə:]&[ar]

He gave me the curd.

That person goes to church every day.

Don't touch the dirt.

He is at the firm.

The barn didn't burn.

He gave me the card.

That parson goes to church every day.

Don't touch the dart.

He is at the farm.

07 「フ」に聞こえる音

[h]

「ハッ」という息の音です (53ページ)。

[f]

必ず下唇を上前歯に付けて発音します (52ページ)。

WORDS

CD2 03

DVD [h]&[f]

hit

heed

hat

hill

hive

fit

feed

fat

fill

five

SENTENCES

CD2 04

DVD [h]&[f]

Is it easy to hit the nail?

Look at his hat.

It's a beautiful hall.

Check the heat!

I'm afraid we have five hives up there.

Is it easy to fit the nail?

Look at his fat.

It's a beautiful fall.

Check the feet!

08 「ブ」に聞こえる音

[v]

下唇と上前歯による摩擦音が発生します
(52ページ)。

[b]

両唇が閉じてパッと開く感じで発音します。
[v] のような摩擦音はありません
(48ページ)。

WORDS

CD2 05

DVD [v]&[b]

very

vest

curve

vote

vase

covered

berry

best

curb

boat

base

cupboard

SENTENCES

CD2 06

DVD [v]&[b]

He didn't buy the vote.

Park the car at the curve.

That's the vase I was
talking about.

That's the very berry I bought yesterday.

The cupboard is covered with dust.

This is the best vest in the store.

He didn't buy the boat.

Park the car at the curb.

That's the base I was
talking about.

09 「ス」に聞こえる音

[s]

舌先を少しだけ上げますが、口内のどこにも触れません (56ページ)。

[θ]

舌を上の前歯で摩擦させます。声は出しません (50ページ)。

WORDS

CD2 07

DVD [s]&[θ]

sink

sum

sick

pass

mouse

sought

think

thumb

thick

path

mouth

thought

SENTENCES

CD2 08

DVD [s]&[θ]

Are they sinking?

He sought no harm.

See the sum?

Touch the mouse.

Show me the pass.

It's sick!

Are they thinking?

He thought no harm.

See the thumb?

Touch the mouth.

Show me the path.

It's thick!

10 「ズ」に聞こえる音

[z]

声を伴った [z] です (56ページ)。

[ð]

舌を上の前歯で摩擦させます。声を伴った [θ] です (50ページ)。

WORDS

CD2 09

DVD [z]&[ð]

breeze

close (v)

tease

bays

rise

breathe

clothe

teethe

bathe

writhe

SENTENCES

CD2 10

DVD [z]&[ð]

He was studying Zen.

She is rising.

I didn't know he was teasing.

Sue's voice is soothing.

Breathe deep and feel the breeze.

He was studying then.

She is writhing.

I didn't know he was teething.

11 「ズ」に聞こえる音

[z]

舌先を少し上げてどこにも付けずに発音
します (56 ページ)。

[dz]

「ヅ」をブツと切るように言います
(67 ページ)。

WORDS

CD2 11

DVD [z]&[dz]

seize

size

buzz

rise

rose

seeds

sides

buds

rides

roads

SENTENCES

CD2 12

DVD [z]&[dz]

He bought me cars.

Check the ties.

How many guys do you
need?

Put all the bees in the
box.

Those herds are hers.

He bought me cards.

Check the tides.

How many guides do
you need?

Put all the beads in the
box.

12 「プ」、「トゥ」に聞こえる音

[p]

必ず唇を閉じてから、破裂させます (48 ページ)。

[t]

舌先が口蓋に当たります (49 ページ)。

WORDS

CD2 13

DVD [p]&[t]

pep

sap

sip

pea

pop

pet

sat

sit

tea

top

SENTENCES

CD2 14

DVD [p]&[t]

It's the pest that bothers me.

Do you like the pea?

This is my favorite cup.

Please sip.

It's the test that bothers me.

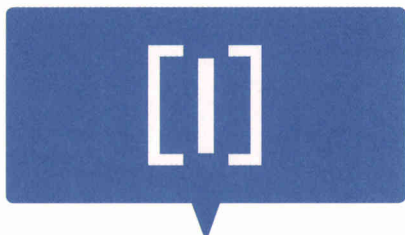
Do you like the tea?

This is my favorite cut.

Please sit.

The roof of that flat didn't flap.

13 「ル」 に聞こえる音



舌先を上前歯の歯茎に軽く付けます (54 ページ)。



舌先はどこにも付けず、口の奥から「こもった音」を出します (55 ページ)。

WORDS

CD2 15

DVD [l]&[r]

light	right
lace	race
lead	read
leap	reap
lime	rhyme
long	wrong
teller	terror
bloom	broom
play	pray
gloom	groom
alive	arrive
collect	correct
cloud	crowd
glass	grass
glow	grow
load	road

SENTENCES

CD2 16 DVD [l] & [r]

Turn on the light switch.

Turn on the right switch.

Use the lock to open the safe.

Use the rock to open the safe.

It's a beautiful lake.

It's a beautiful rake.

We don't eat lice.

We don't eat rice.

He is an excellent leader.

He is an excellent reader.

We come here to play.

We come here to pray.

Please collect all the mistakes.

Please correct all the mistakes.

Look at the cloud!

Look at the crowd!

See how it glows in the dark.

See how it grows in the dark.

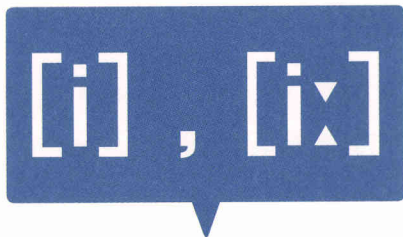
We need to remove the glass.

We need to remove the grass.

“l” と “r” はやはり大盛りになってしまいました。ちょっと苦しかったかもしれませんね。ボリュームに圧倒されるようでしたら、半分ずつ、もしくは3回に分けるなどして自分のペースでやってください。このことは他の発音練習にも言えます。でも、この際 “l” と “r” を徹底的にやっておきましょう。



14 「イ」、「イー」に聞こえる音



[i] は日本語の「イ」と「エ」の中間のような音です。[i:] は日本語の「イ」を思い切って「イー」と引き伸ばす音です。



[j] は日本語の「イ」をかなりきしませた音です。

WORDS

CD2 17

DVD [i], [i:] & [ji], [ji:]

[i]	[ji]	[i:]	[ji:]
ear	year	east	yeast
inn	yin	eel	yield

SENTENCES

CD2 18

DVD [i], [i:] & [ji], [ji:]

It takes only one ear to grasp it.

It takes only one year to grasp it.

It's the east you want.

It's the yeast you want.

They give lectures on the yin and yang at the inn.

How is the yield of eels this year?

LESSON 8

発音の変化

SOUND CHANGES

「通じる英語」を話すという観点からすると、LESSON 7までをしっかりとトレーニングすれば大丈夫でしょう。しかし、ネイティブの遠慮のない英語を理解するためには、ここで扱う「発音の変化」を身につける必要があります。

普段のネイティブとの会話の聞き取りを難しくしている正体は、この「発音の変化」です。このレッスンで「発音の変化」を十分に練習して、1つでも2つでも「発音変化のコレクション」を自分のものにしていくほどに、自然な英語が近づいてきます。まずは解説を読んで、ネイティブのクセや省略を頭で理解してください。次に、音声をよく聞いて徹底的に真似してください。練習を重ねるうちに、リスニング力が必ずアップします。

ネイティブ英語には 「独特な発音変化」がある

よく「ネイティブの英語が速くて聞き取れない」という言葉を耳にします。たしかに自然な英語を「速い」と感じる方は多いでしょう。しかし、**私たちにとって聞き取りを難しくしているのは、スピードもさることながら、「発音の変化」にあります。**

もちろん「速さ」に伴って「発音の変化」が起きることは事実ですし、スピードに慣れることも大切です。

ただ、ゆっくり話している場合でも「発音の変化」は起こります。その証拠に映画などでも、「あんなにゆっくり話しているのにセリフが聞き取れない」ことがあるでしょう。それは「速さ」よりも「音に対する不慣れ」と「発音の変化」に原因があるのです。

ですから、「発音の変化」を伴わない英語をそのまま2倍、3倍に速めたものを聞いて練習したとしても、スピードには慣れますが自然な英語を聞き取るための練習としては役不足です。**いくら倍速にしてあったとしても、そこには「自然な音変化」が存在しないから**です。「発音の変化」は、以下の2つの点に集約されます。

1 沈黙

複数の単語が隣合った場合、音が脱落することがある（Good morning のdが当てはまります）。この現象を「沈黙」と呼びます。（練習文内では、青字で示しています）

2 連結

複数の単語が隣合った場合、音がくっつくことがある（Thank you. などがその例ですね）。この現象を「連結」と呼びます。（練習文内では、 で示しています）

付属CDには、センテンスは超低速とノーマルスピード、単語はノーマルスピードが収録されています。

01 自然な発音の変化

SOUND CHANGES

「発音の変化」と言っても、あまり身構えなくても大丈夫です。私たちは、日ごろ日本語ではもちろん、英語でもごく自然に発音変化を使っています。たとえば、下の表現は、矢印の先に行くほど親しい人に対する言い方ではないでしょうか。

「いやになってしまいます」

「いやになってしまう」

「いやになっちゃう」

「いやんなっちゃう」

「やんなっちゃう」



たとえば外国人が、日本に来る前に音声教材などを使って「いやになってしまいます」や「いやになってしまう」を一生懸命勉強してきたとしても、日本人同士がごく自然に話す「やんなっちゃうよ」を聞いて、びっくりしたり、がっかりしたりすることでしょう。もちろん、この例では表現の変化も起きていますが、これでは「いやになってしまいます」をどんなに倍速で勉強してきた人でも聞き取れません。

しかし、このレッスンで「発音の変化」を練習していくことで、自然な英語に一步でも二歩でも近づくことができます。

さて、英語ではどうでしょうか？ 実は、私たちはすでに発音変化を立派に使いこなしています。

たとえば、

Good bye

Good morning.

日本人でも「グッド・バイ」「グッド・モーニング」と発音する人はあまりいないでしょう。自然と“d”を発音せずに飲み込んで「沈黙」させているはずです。

Thank you.

日本人の子どもでも「サンク・ユー」と言わずに、「サンキュー」と「連結」して言いますよね。もっともネイティブでも冗談やふざけて「サンク・ユー」のように連結させずに言うこともあります。

いかがでしたか？ 「沈黙」と「連結」。この2つが「発音の変化」の代表的なものです。思っていたよりも身近に感じられたのではないのでしょうか。

そもそも「発音の変化」とは、私たちの口や舌の動きを楽にしてくれるものなのです。練習を続けるにつれて、それを実感していくことでしょう。

リアルな発音の変化を体感してみよう

Real Sound Changes

そろそろ付属のCDを使って、実際の発音変化を体感しましょう。

まず、英語のごく自然な発音変化の例を聞いてください。読まずに耳で聞くだけにしてくださいね。すぐ見てしまう人のために、わざと小さい字で書いておきます。

CD2 19-1

I'm going to study international politics.

ちょっと難しかったですか？

発音の変化が激しく感じて、面食らってしまう方もいるかもしれませんが。でも安心してください。今は聞きとれなくても本書で学習

すれば、このような手加減なしの「リアルな英語」がわかるようになります。

少し解説をしましょう。先の例文を次のように読みました。

l'mana study innernational polidics.

慣れていない人には、青字の部分が聞き取れないかもしれません。ここでは、次のような発音の変化が起きています。

l'm going to → **l'm gonna** → **l'mana** 詳しくは127ページ
international → **innernational** 詳しくは131ページ
politics → **polidics** 詳しくは130ページ

あくまでも音を表したもので、このようなスペルで書くという意味ではありません。もっとも、マンガなどでは実際の音に近いスペルを使う場合が多々あります。

順番に練習しましょう。

CD2 19-2

(1) **l'm going to study international politics.**



(2) **l'm gonna study innernational polidics.**



(3) **l'mana study innernational polidics.**

もう1つやってみましょう。今度は小さな字もできるだけ発音通りにスペルアウトして書いておきます。読まずに聞いてくださいね。

Hey, ye godda gedoudda 'ere.

どうでしたか？ これも難しいと感じた人もいますか？
少しずつ確認していきましょう。

(1) Hey, you have got to get out of here.

(have got to = have toと同じ意味)

get out ofはカジュアルな場合ではなくても通常は連結させます。



(2) Hey, you've gotta get out of here.



(3) Hey, ye godda gedoudda 'ere.

いかがでしたか？ 学校のテキストで習ったものとは、だいぶ違うと感じられたことでしょうか。

02 発音変化の基本① 「沈黙」

Silent Consonants

私たちがすでに Good bye. や Good morning. など、“d” の部分をごく自然に沈黙をさせていることは先に触れました。そのほうが発音が簡単で楽だからです。以下の2つはいかがでしょうか？

hot tea

take care

おそらく hot の t、take の [k] を沈黙させているでしょう。そのほうが言いやすいからです。こういった沈黙現象を起こしやすい子音がいくつかあります。

沈黙しやすい子音 [t, d, k, g, p, b]

Silent Consonants
- t, d, k, g, p, b

覚えてほしいパターンは2つです。

- 1：自然な英語では、発話の最後に来る [t, d, k, g, p, b] は沈黙する、もしくは軽く発音される傾向にある。
- 2：[t, d, k, g, p, b] で終わる単語の後に子音が続くときにも、これら [t, d, k, g, p, b] は沈黙する。

沈黙のコツは、口や舌はその音を出すポジションまで持っていく、そこで止めて、しっかりと発音するのと同じ時間だけ溜めるということです。最初はごちなくとも、そのように練習してください。

PRACTICE 1

CD2 20

[t]
very hot
hot tea
that man
sit down
at that time

[d]
very sad
sad kid
good time
fried chicken
stood there

CD2 21

[k]
take care
bake the cake
pick this
look good
seek treasures

[g]
so big
big keg
dig the hole
flag by the house
fig that I bought

CD2 22

[p]
step by step
stop that
gap there
zip code
flip the coin

[b]
stab the mob
crab we ate
job they got
knob fixed
tube broken

*基本練習での「pの後ろに母音が来ないときには、pは激しい破裂がなく、口を閉じるだけのこともある」という趣旨の説明を覚えていますか？ 音を出さずに唇を閉じるだけのこともありましたね。詳しくは48ページ参照

PRACTICE 2

CD2 23

[t]

- Come and sit here.
- Oh, thanks. Yeah, this is the right spot.
- Yeah, you can get some sweet stuff here if you want.

[d]

- His dad died last weekend. He received the sad news today.
- Oh, it's sad. I thought he was in good health.

CD2 24

[k]

- I wanted to bake the cake brown but it's all black.
- Hey, what's in the cake?
- Oh, no! It's a tack!

[g]

- Look at the big keg.
- I saw a big dog dig some fig from it.

CD2 25

[p]

- You should go to the top floor and peep through the hole.
- No. I can't handle the sharp curve on the top floor.
- We should flip the coin and decide who goes up there.

[b]

- Did Bob get the job he wanted?
- No, the job market is so bad that Bob can't get any job.

以上、「t, d, k, g, p, b」の沈黙パターンを練習しました。もう1つ沈黙するパターンを見ていきましょう。

[s]、[z] が沈黙するとき

[s] and [z] Go Silent

[s]、[z] の後に以下のような子音が続く場合には [s]、[z] は後ろの音に吸収されて沈黙します。

PRACTICE 3

CD2 26

[s] + [s]
this stuff
miss Susie

[s] + [ʃ]
this shop
nice shoes

[z] + [s]
those students
is single

[z] + [ʃ]
signs show
these shrines

[z] + [z]
these zebras
his zoo

以上の例では、特定の子音の直前にある [s] や [z] が沈黙しています。nice shoes にしても、nice と shoes を別々にきっちりと発音してしまうとギクシャクした不自然なものになってしまいますね。

自然な英語では、nice の [s] を発音し、そのまま直後にある [ʃ] と重なっていき、まるで「ナイ・シューズ」のように聞こえます。たとえば玉突きなどのゲームでも、今や日本人でも「ナイスショット！」と言っている人はあまりいないでしょう。ほとんどの人が「ナイ・ショット！」と思わず大声を張り上げています。しか

も、「ナイ」と「ショット」の間で“s”を発音するかしないか微妙な間をとって、本物の英語らしくなっています。そのほうが自然で、言いやすいからです。

PRACTICE 4

CD2 27

[s] + [s]

I don't like this **stuff**.

The ball is on this **side**.

Toss some more.

This is going to impress **Susan**.

CD2 28

[s] + [ʃ]

I love this **shop**.

Check this **sharp** knife!

Yes, **she** is.

I bought horse **shoes**.

CD2 29

[z] + [s]

He's **still** there.

Why are you taking **his** side?

Can you read **those** signs?

I miss **those** students.

[z] + [ʃ]

He's **sh**aving now.

Does **sh**e come here often?

These pieces **sh**ould be removed.

It is **sh**rinking.

[z] + [z]

He visited all those **z**oos.

It is **z**ero point five.

She studies **z**oology.

My brother loves **z**ucchini.

03 発音変化の基本② 「連結」

Linking

沈黙のほかに、代表的な発音の変化として「連結」があります。英語では、**隣合った音がくっつくことがあります。これが「連結」です。**複数の音が連結する際、音が沈黙するパターンや音に変化するパターンなどがあります。

連結の基本

Linking - Basics

英語では「子音」と「母音」が隣合わせになると、連結しやすくなります。さっそく例を見ていきましょう。

PRACTICE 5

CD2 32

Come over.

この例では、Comeのmeの部分とoverのoが連結します。

Turn around.

この文では、nとaが連結です。

Finish up.

この例ではshとupのuが連結となります。

Jump in.

ここではpとiが連結となりますね。

It pops up.

sとuが連結します。

See the box on the table?

xの[s]とoが連結します。

tが「柔らかいd」になるパターン

「子音」＋「母音」コンビネーションで、とくに注意したいものが「柔らかいd」です。まずは聞いてください。

CD2 33-1

Turn it off.

この例では、Turnのnとitのiが連結し、itのtとoffのoが連結します。

あえてit offの部分をカタカナ表記すると、「イットオフ」ではなく、「イロフ」または「イラフ」のように聞こえます。

ここで覚えておいていただきたい「**柔らかいd**」とは、米語では、tが母音の前に来て連結する場合、tの音が柔らかくなり、**まるで日本語のラ行のように聞こえる**という音変化です。この音には[d]の音もやや入っていますので、そのことを意識しながら、日本語のラ行で発音すると米語発音らしくなります。

このtは、「dを柔らかくしたような音」に聞こえることから、本書では「**柔らかいd**」と呼びます。

子音のtの後ろに母音が続く場合には、tが「柔らかいd」に変化する傾向があります。



PRACTICE 6

CD2 33-2

Pick it up.

Get it.

Wrap it up.

Turn it around.

Flip it over.

Not at all.

Good afternoon. Good evening.

dも「柔らかいd」になります。

Stick it in.

Mix it up.

以上、「柔らかいd」に気づきましたか？ この「柔らかいd」になるtは、実際、米語発音ではよく出てきます。「くせ者」ですので、後ほどまとめて練習します。

“y” が起こす発音変化の例

Tricky “y”

“y” は直前の子音の影響を受けて音変化を起こしやすいものです。例文を見ながら確認していきましょう。

ここで紹介している発音の変化は、一般的な傾向（パターン）を示すものです。発話者によっては、あるいはシチュエーションによって異なる発音をするケースがある、ということをご留意ください。

◎ tとyが連結して「チュ」と聞こえる例

PRACTICE 7

CD2 34

Nice to meet you.

Don't you like it?

You knew that, didn't you?

I want you to come with me.

I will let you know.

以上の例では、「t + y」の影響で青字部分が連結して、“chu”つまり [tʃu] の発音になり「チュ (-)」のように聞こえます。

“t” を飲み込んで沈黙させて言う人もいます。その際、“t”の前に“n”がある場合には、nの影響を受けて“nyu”つまり [nju] となることもあり、まるで「ニュー」と聞こえます。たとえば、don't you は “don nyu” のように、didn't you は “didn nyu” のように、そして、want you は “wan nyu” のように聞こえることがあります。

◎ dとyが連結して「ヂュ」と聞こえる例

PRACTICE 8

CD2 35

Did you know that?

I told you so.

Mind you.

Would you like to come to the party?

Remember the pond you jumped in?

以上の例では、「d + y」の影響で青字部分が連結して、“ju”つまり [dʒu:] の発音になり、私たちの耳には「ヂュ」と聞こえます。

また、この例についても、“d” を飲み込んで、沈黙させるアメリカ人もいます。その場合には“d”の部分を発音しませんが、その分の時間はとります。

◎ [s] とyが連結して「シュ」と聞こえる例

PRACTICE 9

CD2 36

I miss you.

How's the business this year?

I love this yacht.

This is the ice you broke.

上の例では、[s] の音と “y” の音が連結して、“sh” の音、発音記号で書けば [ʃ] となります。

ただし、[s] と “y” を連結させずに発音するアメリカ人もいます。

◎ [z] と y が連結して「ジュ」と聞こえる例

PRACTICE 10

CD2 37

Are these yours?

I have the candies you bought.

These are the oldies you like.

The babies you tucked in are all sound asleep.

この例では [z] と [j] 2つの音の間をスムーズに言う練習をしてください。この例でも、連結させずに発音する人も多くいます。

◎ t と y が連結して「チ」と聞こえる例

PRACTICE 11

CD2 38

He came back last year.

This is the test you took.

I don't know how fast you are.

参考までに上の例では、以上の発音変化に加えて、単に “t” が沈黙する場合もあります。その際、“t” が沈黙することにより “s” と “y” が連結するケースが出てきます。このような「s+y」ではsがほとんど聞こえず、“sh” の音、つまり [ʃ] となります。ですか

ら、las(t) year は la(s) shyear のように、tes(t) you は te(s) shyu のように、fast you は fa(s) shyu のように聞こえます。

ネイティブに “la(s) shyear” と言われて、「ラッシャーって何だ？」と戸惑ったことのある人もいるのではないのでしょうか？ また、“t” を単に飲み込んで沈黙させるだけの人もいますし、いくつかのパターンがあります。

04 カジュアルな会話での発音変化

Sound Changes In Casual Conversations

ここからは、「カジュアルな会話」における発音の変化を学んでいきます。

カジュアルと聞くと、親しい間柄でのやりとりを連想するかもしれませんが、ビジネスシーンなどでも、お互いがある程度知り合うにつれて、くだけた口調が用いられることがあります。

私たちが使う「カジュアル」な日本語での、発音の変化をここであらためて考えてみましょう。

日本語を学習している外国人が、日本人からごく自然に「こっちゃんー忙しいんだから、早くしてくんねえーかなあ」と言われて、「紅茶忙しい？」と目をパチクリさせてあ然としてしまうこともあるでしょう。

「私は忙しいので早くしてくれませんか」

「こちらは忙しいので早くしてくれないか」

「こっちは忙しいのだから早くしてくれないかな」

せいぜい上に挙げたような発音変化しか知らない日本語学習者は、「こっちゃんー忙しいんだから早くしてくんねえーかなー」のような遠慮のないリアルな日本語を聞き取ることはできないでしょう。

このような“品のない(?)”外国語は使うべきではない、と思われる人もいるでしょう。私も原則的に避けるべきだと考えています。

しかし、英語の発音変化に関しては、私たちにとって「崩れている」と思われる発音でも、**多くの場合それが彼らにとって自然な発音なのです。**

たとえば政治家などがテレビのインタビューなどで自然に話す場合、ここで学ぶ「発音の変化」が頻繁に顔を出します。

もちろん英語でも下品な言い方は山ほどあります。本書で「カジュアル」と表示したものは「下品」とは異なりますが、まだ上手に使いこなせない状態なのに使ってしまうと「たどたどしくせに、変に馴れ馴れしい」「崩した言い方を無理して使っている」というような印象を相手に与えてしまう可能性はあります。

しかし、発音の変化を学ぶということが、必ずしも品のない英語の発音を学ぶということではありません。「発音の変化・崩れ」＝「より自然な英語」と考えてよいでしょう。

ここからは、私たちが発音変化をマスターしないうちは使わないほうがよいと思われるものに関しては「カジュアル」と記しています。とくにフォーマルな場、ビジネスの場などでは「カジュアルなもの」は使うのを避け、リスニング力の向上という観点で役立ててください。

新しいことも出てきて少し戸惑うこともあるかもしれませんが。しかし、少し練習して、それに慣れてしまえば、「発音の変化」は私たちの強力な味方になります。何しろ、「話す」と「聞く」をより楽にしてくれるのが「発音の変化」なのです。

thが沈黙するパターン

Silent "TH"

カジュアルな会話のやりとりの中では、thが沈黙する場合があります。その代表的なものがthem, that, thereなどです。ここで例文を通して練習をしっかりとっておけば、自然な会話でthの沈黙に遭遇しても乗り切っていくことができるでしょう。

今一度繰り返しますが、当面の間はここで「カジュアル」と書か

れたパターンについては主に聞き取りに役立ててください。

英語を話すことに慣れるにつれて「カジュアルな言い方」も自然に使えるようになりますし、経験を積むほどにそのように話しても「板についた」ようになっていくことでしょう。

PRACTICE 12

CD2 39

Tell them.

Tell 'em. 〈カジュアル〉

thが沈黙し、前のlと連結します。

I could do that.

couldのdとthatのtが沈黙します。沈黙しやすい子音ですね。

I could do 'at. 〈カジュアル〉

そして、さらにthatのthが沈黙します。

They told you that.

told youのdとyが連結して、「トウジャー」のようになります。thatの最後のtの沈黙はもう大丈夫ですね？

They told you 'at. 〈カジュアル〉

thatのthが消えて、atのように発音されます。

They tol(d) you 'at. 〈カジュアル〉

また、もう1つのカジュアルパターンとして、toldのdが沈黙するものがあります。あえてスペルアウトすれば、They tole 'you 'at.となります。

以下、1つの例文で音変化が多く発生し、混乱しそうな場合には、沈黙する文字を（ ）で括っている場合があります。

Did you like that movie?

like, thatの青字部分は沈黙します。Did youのdとyが連結して、Di juのようになります。

Did you like that movie? 〈カジュアル〉

(Di ji) (liga(t))

Did youが連結し、若干崩れてDi jiのようになります。そして、thatのthが消えてatとなって母音始まりになると、前のlikeの子音keと連結します。そのときにはlikeのke部分はgの音となって、この部分はlike that → liga(t)とさえ変化します。このliga(t) movieの部分は、まるで、lie ga(t) movieのようになります。thatの最後のtは沈黙です。

Did you like that movie? 〈カジュアル〉

(Ji) (liga(t))

Did youがさらに崩れてJiとなってしまいます。その他は上の例と同じです。

以上練習してきた一部の例文でもそうでしたが、以下の例文でも実際の音を表すようなスペルがところどころ使われています。つまり、書き言葉としての正しいスペルばかりとは限りません。

PRACTICE 13

CD2 40

I've never been there.

米語発音では、beenの下線部は [i:] ではなく [i] である、ということ覚えていますか？ beenの発音はbinと同じで、beanとは異なります。

I've never been 'ere. 〈カジュアル〉

thereのthが消えて'ereとなり、そのままbeenの [n] と連結します。

Have you met them?

Haveとyouをスムーズにつなげ、metのtは「沈黙」。

Have you met 'em? 〈カジュアル〉

themのthが消えて'emとなります。また、metのtは「柔らかいd」になりますが、CDではほとんど聞こえませんが。

I want to go and talk to them.

青い部分が「沈黙」です。

I wanna go 'n talk to 'em. 〈カジュアル〉

want to が wanna に、and → an' → 'n と変化があって、them が 'em に変化します。

I wanna go 'n talk (to) 'em. 〈カジュアル〉

talk to 'em の to が沈黙することもあります。ただし、沈黙の際にはその語を発音するつもりで溜めて時間をとります。

I have got to meet them.

青い部分は「沈黙」です。

I've got to meet them.

have が 've となります。got の t、meet の t は「沈黙」です。

I've gotta meet 'em. 〈カジュアル〉

have got to が 've gotta に、them が 'em に変化します。meet の t は「柔らかい d」、もしくは沈黙となります。

I godda meet 'em. 〈カジュアル〉

have got to が godda (「柔らかい d」です) に、meet them は meet 'em に変化しています。やはり、meet の t は「柔らかい d」もしくは沈黙となります。

h が沈黙するパターン

Silent "h"

ここで h が消える例を練習します。どうも h はパワーが弱いのか、周囲の強い音に吸収されやすいようです。この知識は、まずはリスニングに役立ててください。実際の会話では当面の間は、h を発音しておきましょう。

まずは、ごく短い例文から始めていきます。

Come (h)ere. 〈カジュアル〉

hが消えています。

Give (h)im a call. 〈カジュアル〉

ここでもhimのhが消えて、Giv'imとなり、himのmとaが連結して、一気にGiv'ima call.のように言います。

Give it to (h)im. 〈カジュアル〉

まず、Giv'itとなりますが、itのtは沈黙します。速めの英語ではtoは「トウ」のように発音せず、かなり弱くなり、[t] や [d] としか発音しないこともあります。himのhは沈黙します。

Talk to (h)er. 〈カジュアル〉

Talkのkに関しては舌をkのポジションにしますが、そこで止めるだけでしっかりと破裂させません。toは相変わらず弱く発音し、herへとスムーズに移動します。その際、herはhが消えて'erとなります。

Give (h)er some money. 〈カジュアル〉

herのhが消えてGiv'erとなり、someが速い英語だとかなり省略されて[sm]となってしまいます。また、someの[m]の音が直後のmoneyの[m]と連結します。ですので、someを言って唇を閉じたまま次のmoneyのmを言い始めます。

I (h)ave another one. 〈カジュアル〉

本動詞のhave「～を持つ、～がある」のhは、カジュアルな場合に省くこともあります。

I might have gone there.

mightのtが「沈黙」です。

I might've gone 'ere. 〈カジュアル〉

mightとhaveが連結し、mightのtが「柔らかいd」となります。これは、haveのhが沈黙して'veとなって、mightのtが'aと連結した結果、「柔らかいd」となったものです。thereのthが消えて'ereとなり、子音+母音のコンビネーションによって、そのままgoneの[n]と連結します。

They should (h)ave told you that.

told youの連結はよいですね？ haveのhが沈黙してshould haveは連結します。その結果「シュルアヴ」に聞こえます。

They shoul(d)'ve told you 'at.

さらに、should haveが省略形のshould'veとなり、shouldのdは「柔らかいd」。したがって「シュルヴ」のように聞こえます。thatのthが沈黙します。

They shoul(d)'ve tol(d) you 'at. 〈カジュアル〉

tole youのパターンも、もう一度やっておきましょう。

I could (h)ave done that.

could haveが連結し、hが消えて「クルアヴ」と聞こえます。

I could've done 'at. 〈カジュアル〉

could'veと省略形をとり、dが「柔らかいd」となりますので、「クルヴ」のように聞こえるでしょう。done thatは連結しますが、thatのthが消えて'atとなり、doneの[n]がすぐにthatの省略形である“at”にかかりますので、done natのようになります。その際の注意点としては、doneでnを発音するのに舌を口蓋にピタッと付けますが、そのまま舌を離さずに次のnatを言うことです。

I'm going to have to get out of here.

going toのtoは弱くなり、そのtは「柔らかいd」となることがあります。haveのveはfになります。get out ofは連結して、「ゲラウラヴ」のように聞こえます。場合によっては、ofのfも消えて、「ゲラウラ」とだけ聞こえます。

I'm gonna have to get out of here. 〈カジュアル〉

ここでは上の例の変化に加え、going toがgonnaになります。

I'm gonna 'a(f) d' geddoudda 'ere. 〈カジュアル〉

ここではさらに、haveのhが消えてveがfになるか、もしくは沈黙します。そして、toのtは「柔らかいd」になります。get out ofが最初に説明したように「ゲラウラ」のようになります。hereのhは消えます。

I manna 'a(f) d' geddoudda'ere. 〈カジュアル〉

I'm gonnaがI mannaとなることはすでにやりました。場合によっては“l”の発音も「ア」とだけしか聞こえない場合もあります。ですので、大変カジュアルな場合は「アマナ」とさえ聞こえます。そして、ぞんざいな言い方ではget out ofが「ゲラーラ」と聞こえます。もちろん、カタカナを利用する際は英語音声をしっかり参考にしてください。

BONUS

Give me that. 〈カジュアル〉

(Gimme)

Give meがカジュアルだとGimmeとなります。これは、meのmを発音するには口を閉じなくてはなりませんが、Giveのvを律儀に発音しているとスムーズにmに移れないので、手を抜いた結果vを無視するのでしょう。人間、やはり楽なほうに流れますね。ところで、ここではthatのthは省略されにくいですが、「あれをください」と言っているセリフですので、thatは重要な意味をもつからです。それでも、thを省いて発音してしまうネイティブはいます。

Gimme all 'o 'em. 〈カジュアル〉

もうおわかりですね、Give me all of them. をカジュアルに発音したものです。

高校生のときに「ギミーシェルター」という曲をよく聞いていましたが、タイトルの意味がわかりませんでした。英語の曲名を見ても“Gimme Shelter”としか書いていなくて、長い間ナゾでした。その後、Gimmeは、Give meのことだとわかり、たどたどしいながらも、英語を話すときに“Gimme ~”を使い始めました。「Giveのveで下唇を噛まないでいいから、なんて楽なんだ！」と味をしめたことがありました。



05 沈黙・連結を含んだ発展練習

Further Practice

ここでは、今まで学んだ発音の変化も復習しながら、様々な実際の変化を練習していきます。中には「音を崩しすぎだ」と思われるものもあるかもしれませんが、自然な英語を聞き取るには大切なものばかりです。ここでもモデルをしっかりと聞いて、リピートして練習してください。

以下の例文でも、カジュアルと思われる発音には「カジュアル」と表記しました。また、ごく自然な発音方法でも当面は使用を避けたほうが望ましいものにも「カジュアル」と表記してあります。

繰り返しになりますが、実際の会話で自信のない方は「カジュアル」のパターンは控えたほうがよいでしょう。当面は練習して力を蓄えておくのです。確実に聞き取りのよい練習になります。

PRACTICE 15

CD2 44

Go and study. → **Go an' study.** → **Go 'n study.**

andが弱くなってan'になり、さらには'nとなっていくます。さらに拍車がかかると、Go study.となり、andは無視されます。

Come and get it.

Come andが連結して、andのdが沈黙です。getのtが「柔らかいd」となり、itに連結していきます。itのtが沈黙することは大丈夫ですね？

I want bread and butter.

wantのtは沈黙します。breadのdは沈黙せずにandのaに連結し、そしてandのdが沈黙です。速くなるとbread'n butterのように言います。また、tに関しては後ほど再び焦点を当てますが、butterのttの部分は「柔らかいd」の音になります。つまり、budderのように聞こえます。

Look at that!

Lookのkがatと連結し、atのtとthatの最後のtが沈黙します。この文を自然なスピードで言われて「ルッキーザエアット！ って何だ？」と思った経験のある人もいるのではないのでしょうか。

Can you come to my house at two?

Can youが連結し、atのtが沈黙します。

I can come over by one.

canの発音は発話スピードが上がるにつれて、[kæən] → [kən] → [kn] のように変化します。ただし、canを強調したい場合は [kæən] となります。否定の can't には [æ] が通常使われます。肯定文の場合は、通常 [kən]、[kn] が使われます。なお、comeとoverは連結です。

CD2 45

Would you like some tea?

Wouldとyouが連結して青字部分が「ジュ」と聞こえます。likeの[k]は沈黙です。

Would you like some tea?

(U ju)

Would youの連結でWouldのwの音が弱くなるか、もしくは消えて、“U ju”となることもあります。likeのkは相変わらず沈黙し、someが[sm]とだけになります。

Would you like some tea? 〈カジュアル〉

(Ju)

Would youがさらに崩れて、“Ju”となってしまいます。その他は前の例と同じです。someは相変わらず[sm]となります。

Did you eat yet?

(Di ju)

Did youが連結して“Di ju”のようになり、eatとyetのtが沈黙します。場合によってはeat yetが連結して、“eatche’?”のように発音されることもあります。

Did you eat yet? 〈カジュアル〉

(Ju)

カジュアルになると、Did youが単に“Ju”となってしまいます。そして、eat yetは連結して“eatche’?”となったり、もしくは2つのtが沈黙となることもあります。

Should I stand up?

Should Iが連結しますが、その際、dが「柔らかいd」となります。まるで「シュライ」のように発音されます。また、stand upはdが次のuと連結し、少し速い英語ではdが柔らかくなり、まるでstanlupのようになります。カタカナであえて書けば、「スタンラッ(プ)」のようになります。最後のpは沈黙します。

Should I stan(d) up?

相変わらずShould Iが連結し、dが「柔らかいd」となります。そして、stand upも連結しますが、dが沈黙することによって、dの直前のnがupと連結してきます。すると、発音はstan’ up.のようになり、まるで「スタンナップ」のように聞こえます。

Do you want to come and join us? 〈カジュアル〉

(wanna)

want toはややカジュアルになるとwannaになりやすいです。そして、come andは連結し、andのdは沈黙します。join usは連結します。なお、wannaは親しい間で使いましょう。丁寧な話し方の場合やあらたまった場では、そもそもwant toという言い方を避ける傾向があり、would like toが好まれます。

Do you want to come ’n join us? 〈カジュアル〉

(De ye) (wanna)

カジュアルな言い方では、Do youが、発音記号を使うと [də jə] となり、あえてDe yeのようにしました。want toがwannaになることはもうおわかりです

ね？ come and join us の and はさらに'n となってしまいます。

Did you want to read this? 〈カジュアル〉

(Di ju wanna)

Did you が Di ju になることはすでにやりました。また、want to が wanna になること、read の d が沈黙することももうおわかりでしょう。

Did you want to read this? 〈カジュアル〉

(Ju wanna)

カジュアルになると、Did you が “Ju” になることもやりましたね。そう、Did you がまるで “Jew” のように発音されます。昔の映画で Woody Allen (ユダヤ系です) が「自分は “Jew eatche”?’ などとからかわれるんだ」というようなセリフを言っているシーンがあったことを記憶しています。この英語はもうおわかりですよね？ “Did you eat yet?” をカジュアルなパターンで言ったものです。

CD2 46

I'm going to study tonight.

比較的速い英語ですと to の t は「柔らかい d」になります。tonight の最後の t は沈黙です。

I'm going to study tonight. 〈カジュアル〉

(gonna) (d)

カジュアルになると、going to が gonna となります。tonight の最初の t が「柔らかい d」となり、最後の t は沈黙します。

I'm going to study tonight. 〈カジュアル〉

(I'mana) (d)

非常にカジュアルな例では、I'm going to が I'mana のようになってしまうことはやりました。そして tonight の最後の t は沈黙するとして、最初の t が「柔らかい d」になることはもう大丈夫ですね。

What do you want to do?

What, want の t が沈黙します。

What do you want to do? <カジュアル>

(wanna)

want to → wanna はもうよいですね。

What do you want to do? <カジュアル>

(Whaddaya) (wanna)

ここではさらに、what do youが崩れWhaddayaのようになってしまいます。
youがyaになってしまい、「ワダヤ」「ワラヤ」のように聞こえます。

How are ya? <カジュアル>

前の例でやったyouをyaでもう一度練習しておきましょう。知り合いに親しみを込めてこのように言うことは多々あります。

What do you think about it?

Whatのtの沈黙はもう大丈夫でしょう。ここではthink about itの青字下線部は連結です。その際、thinkのkはやや弱くなりgの音色が入り込むことがあります。また、aboutのtは「柔らかいd」になり、itのtは沈黙です。

What do you think about it? <カジュアル>

(Whaddaya)

この例ではWhat do youがWhaddayaのようになり、「ワダヤ」「ワラヤ」のように聞こえます。

06 “t” にご注意

Tricky “t”

米語発音を目指す場合、“t”の発音変化はどうしても無視できません。これまでの練習でも“t”の発音変化がよく顔を出してきたと思います。ここではあらためて、「tの発音変化」をクローズアップしましょう。

単語内の沈黙

Silent “t”

単語内でtが沈黙することがあります。この「技」も私たちの発音を楽にしてくれます。確認しましょう。

CD2 47-1

**exactly, differently, constantly, apparently,
separately, definitely**

以上の例に見るように、-tly, -telyなど、tとlが隣合って発音しにくいときは、tを沈黙させてから次のlを発音するとやりやすくなります。

tもlも両方とも真面目に発音しようとする、tで一度破裂させるので舌が口蓋からいったん離れてしまい、あらためて舌を口蓋に付けてlを発音することになるので、なかなかスムーズに言えない人もいるのではないのでしょうか？

余談ながら、学生時代の私はこのコンビネーションを上手く言えずにいたのですが、アメリカ人の友人から「tを沈黙させて（silentにして）言ってごらん」とアドバイスを受けてから上手く言えるようになりました。

また、-dlyの場合も同様です。dを沈黙させると楽に発音できません。

いくつかやってみましょう（dは舌をその位置に持ってだけで、音は出しません）。

CD2 47-2

hardly, excitedly, deadly, badly, idly, godly

tが「柔らかいd」になる例

Soft "d"

これまでもセンテンス内でtが「柔らかいd」になる変化を見てきました。以下のような単語内でも、tは「柔らかいd」になります。

CD2 48

city, letter, butter, water, meeting, shorter, party, later, lettuce, Patti, vertical

それぞれ cidy, ledder, budder, wader, meeding, shorder, pardy, lader, ledduce, Paddi, verdical のようになります。

「柔らかいd」が日本語のラ行のように聞こえることはすでに述べました。ですので、ラ行で練習してもよいでしょう。自分でやりやすい方法を取ればよいと思います。ただし、必ずネイティブの発音を参考にすることが大切です。この現象も実際の会話では慣れるまではtをしっかり発音させたほうがよいでしょう。

参考までに、イギリス、オーストラリアなどでは通常tをしっかり発音して、基本的に「柔らかいd」にはしません。

nの影響で変身するt

"n" changes "t"

“t”の前に“n”が来ると、“n”の影響で“t”が“n”に変化することがあります。

CD2 49

center → cen**n**erinternational → inn**n**ernationaltwenty → tw**n**nyinternet → inn**n**ernetinterview → inn**n**erviewplenty → pl**n**nywinter → win**n**erdentist → den**n**istwanted → wan**n**edwant to → wan**n**a (すでにやりましたね)It's heavy, isn't it?

以上のような「t → n」は、米語発音の大きな特徴の1つでしょう。

この現象に関しても知識として押さえておき、無理をしてまで真似する必要はないと思います。当面はtをしっかり発音していきましょう。ここで「tの変化」をしっかり練習したうえで米語をたくさん聞いて経験を積んでいけば、英語の進歩とともに自然に使えるようになっていきます。また、どの現象に関しても言えることですが、例外もありますので一つひとつ押さえていくことが重要です。

tの前にnが来ても変化しないケース

Some Exceptions

次のような例は、先ほどの法則（tがnに飲み込まれる）が当てはまりません。青字のtの後ろに来る母音に強勢が来ていますね。そのような場合にはtをしっかりと破裂させて発音します。

CD2 50-1

inter**t**preter

inter**t**ernal

inter**t**ention

un**t**il

ただし、anti-の場合はtiの部分に強勢がなくても、tは破裂させます。

CD2 50-2

anti-abort**i**on

anti-slav**e**ry

anti-ag**i**ng

このようなケースもありますので、一つひとつ地道に覚えていくことが大切です。



「t+強勢の無い母音+n」のパターン

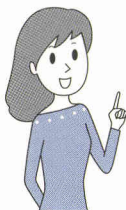
Swallowed "t"

このパターンでは、tは飲み込まれてしまい、聞こえない場合が多々あります。

CD2 51

important, cotton, written, mitten, mountain,
forgotten, bitten, flatten

やはり、大切なことは、tを沈黙させても「その分の時間はとる」ということです。繰り返しになりますが、イギリス、オーストラリアなどではtをしっかり発音しますし、アメリカ人でもtを発音する人はいます。



変化する“t”をモノにするとリスニングもグンと伸びますよ。

[ə] schwa soundについて少しだけ解説しましょう。このschwaは発音の微調整に重要な意味をもってきます。

シュワの場合、この音1つが上手くいかないがために通じないということはあまりないと思いますが、通じても「どこか変な英語」になっていることがあります。上手に英語を使いこなしている日本人でも、ネイティブに「なんか変な英語だ」と感じさせてしまう要因の1つに、schwa soundがあるようです。

これは非常に小さな部品かもしれませんが、この小さなネジがしっかりしていないがために全体が歪んでしまうこともあります。小さな部品をきちんとそろえることで話す英語が締まりますし、さらに一步本物のように響かせるためにも重要な存在です。ここではschwaに焦点を当てて意識を高めていきます。

私たちが何気なく間違っって発音している例をいくつか練習しましょう。

CD2 52-1

distant, Japan, entrance, Susan

おそらく青字の部分を「ア」で代用している人が多いのではないのでしょうか？ それで通じていると思います。しかし、もう一步進歩したい人は、日本語の「ア」は忘れてください。むしろ日本語なら「イ」の音のほうが近いです。発音記号で言うと [i] を少し意識して発音したほうが本物になっていきます。話すスピードが上がるほどに、その傾向が強まります。

「distあnt」よりは“distint”、「Jあpan」よりは“Jipan”、

「entrance」よりは“entrince”、「Suzanne」よりも“Suzin”、ということを意識に置いて練習してみてください。

なかなか信じ難い人もいると思いますが、その昔アメリカ人の先生が講義中に“until”という単語を“intil”のように発音しているのが非常に印象深かったのを覚えています。自然な流れの中での発話では、[ə]がこの“i”の音色になる傾向が多々あります。

CD2 52-2

package, manage, cabbage

パッケージ、マネージ、キャベジではありません。青字部分では [i] を意識して練習しましょう。

CD2 52-3

decision, occasion, nation, station, fashion

「～ジョン」とか「～ション」では決してありません。

今までの例がそうであったように、青字部分は [ə] の音1つだけです。徹底的に「～ジョン」や「～ション」から意識を離してください。そのためにも、[i] の音を意識して練習するとよいのです。

今後は schwa に注意を向けて練習したり、話していきましょう。とくに発音がかなり上手になっている人にとっては、大変よい微調整となるはずです。

08 裏技「隠しカード」でズルをする

Using Trick Cards

さて、もっと楽をするために、そして、より本物らしく英語を響かせるために裏技を使ってズルをしていきましょう。これまでもかなりズルはしてきましたが、ここで紹介するズルはもっと手の込んだものです。ポーカーで言えば、配られてもないカードを密かに隠し持って使うようなものですから。

「隠しカード “y”」を使う

“y” Card

[i:] もしくは [i] の後ろに母音が来たときに、この「yカード」を使います。まず、以下の例文をざっと聞いてください。

いずれも青字部分で「隠しの “y”」を使うとスムーズに発音することができます。これは、[i:] もしくは [i] の直後に母音が続いていますが、発音を移行する際に舌のポジションがすぐにでも [y] を発音してもおかしくない状態になっているからです。ですので、その舌のポジションから次の母音に移ろうとするところに [y] を軽く添えてやると、舌の動きがスムーズになって発音しやすくなります。

PRACTICE 16

CD2 53

Come and see us.

see us → see yus yは軽く添えましょう。

This is tasty and healthy.

普通に話すときは、tastyandという感じで続けて連結させます。ゆっくり話すときでも、tastyとandの間にポーズを入れない場合にはtastyのyを引っ張って行ってandにつなげます。この例では、そもそもyが入っているのだからやりやす

と思います。

We will be arriving at one.

(be arriving → be yarriving)

He was with me all day.

(me all → me yall)

We arranged the meeting.

(We arranged → We yarranged)

The meeting will be over by three.

(be over → be yover)

I wanna interview the owner.

(the owner → the yowner)

I'll be at work all evening.

(be at → be yat)

この「yカード」は単語レベルでも使えます。右側の単語を見ながら練習してください。

WORDS

CD2 54

dial → diyal

lion → liyon

giant → giyant

trial → triyal

curious → curiyous
burial → buriyal
material → materiyal
period → periyod
cereal → cereyal
media → mediya
medium → mediyum
champion → champiyon
radio → radiyo
piano → piyano
diagonal → diyagonal

どうでしたか？ 「yカード」を使うことで、ずいぶん発音しやすくなったのではないのでしょうか？ そして、本物らしく発音できているはずです。たとえば、“triyal”のように「yカード」を上手く使った発音と「トライアル」とでは音色が違います。慣れるまでは違和感があるかもしれませんが、少し練習して慣れてしまうと非常に楽に発音できるはずです。

参考までに、上の単語では、「yカード」の直後の音はradio, piano, diagonalを除いてすべてschwa [ə] となっています。radioは [ou]、そして、diagonalとpianoは [æ] となります。

「隠しカード “w”」を使う

“w” Card

さて、ズルをするためのもう1つのカードを紹介しましょう。

「wカード」です。このカードは [w]、[u] が母音の前に来たときに使えます。さっそく例文を1つ見ていきましょう。

CD2 55-1

He doesn't allow other members to go out.

まず、allow otherに注目します。allowがwで終わっているの
で、そのままwが連結して、otherのoにつながり、allowotherと
なることはおわかりですね。

では、go outはどうかというと、goの発音は [gou] であり、
[u] で終わります。この [u] を発音するためには、唇は若干すぼ
んで丸まります。そのときの唇の形は、まさにwを発音するには
うってつけのものなのです。したがって、わざわざその形を崩さず
にそのままwにして直後の母音に連結させてしまうほうが早道な
のです。よって、go outは軽くwを添えてgowoutとなってスムー
ズに言えます。ズバリ、楽です。

PRACTICE 17

CD2 55-2

They shouldn't go in there.

(go in → gowinとなります)

We have no eggs.

(no eggs → noweggs)

We'll be there by two o'clock.

(two o'clock → twowo'clock)

They do everything together.

(do everything → doweverything)

You didn't stow away, did you?

(stow away → stowaway)

Let's go under the bridge.

(go under → gowunder)

You wanna do it now?

(do it → dowit)

※ところで、この文は文法的には肯定文ですが、最後を上昇気味に言うことで疑問文になります。

スムーズに言えましたか？ 練習するほどに滑らかに言えるようになります。

さて再び、右側の単語を見て練習しましょう。

WORDS

CD2 56

dual → du**w**al

going → go**w**ing

genuine → genu**w**ine

tuition → tu**w**ition

fluent → flu**w**ent

cooperate → co**w**operate

doing → do**w**ing

arguing → argu**w**ing

influence → influ**w**ence

oasis → o**w**asis

どうでしたか？ 「wカード」を使うことで、今までスムーズに発音できなかった単語もずいぶん楽に言えたのではないのでしょうか？ この「wカード」もあからさまに使うのではなく、相手に見破られないようにサッとテーブルの下から出して、手の内を見せないことがコツです。

そして、「こんなの不要。ないほうが上手くいく」という人は、利用する必要はありません。自分のやりやすいやり方でやってください。主体はあくまで利用者です。

「隠しカード [ə] schwa」でさらに細工を

Schwa Card

◎ [u:] + [l] の発音

ここでは、coolなどのように [u:] の後に来る [l] を上手く発音するために [ə] schwaの力を借りた裏技を使います。最後の [l] を発音する直前に軽く [ə] を入れます。

PRACTICE schwa

CD2 57

cool → [kú:əl] [kú:wəl]

school → [skú:əl] [skú:wəl]

pool → [pú:əl] [pú:wəl]

fool → [fú:əl] [fú:wəl]

stool → [stú:əl] [stú:wəl]

tool → [tú:əl] [tú:wəl]

rule → [rú:əl] [rú:wəl]

[ə] の入れ方が少々微妙で、慣れないうちは上手くいかないかもしれません。しかし、一度慣れてしまうと schwa を入れないほうが違和感を感じます。そのいかにも英語っぽい音に自分でも感心することでしょう。

勤の鋭い人はお気づきかと思いますが、[ə] は [u]、[u:] の直後にありますので、わずかに「隠しカードの [w]」を使ってよいわけです（右側の発音記号）。

ここでも、「[w] までは不要。かえって変な音しか出ない」という人もいるはずです。[w] まで使う必要はありません。カードを使いすぎて、タネを見破られてしまうのもまずいですからね。

いずれにしても、裏技は大きさにはっきりとは使いません。微妙な技ですので練習を積んでください。そして、隠し味として使いこなし、相手にその存在を意識させないことです。

◎ [əɪ] について

私もそうでしたが、table, apple, trouble, final, travel, chapel など [ɪ] で終わる単語が難しいと感じている人も多いようです。ここでもズルをします。[ɪ] の直前に [ə] を添えて [əɪ] としてしまうのです。そして、最後の [ɪ] を思い切って省いてしまいます。

LESSON 3でも触れましたが、単語の最後に来る [ɪ] の場合は必ずしも舌が口蓋や歯茎に触れなくても大丈夫です。せいぜい、舌を口蓋に向けて少し上げるだけでよいのです（もちろん、[ɪ] の直後に母音が増えて連結する場合はその限りではありません）。それぞれのスペルを tabu(l), appu(l), troubu(l), finu(l), travu(l) としたうえで、日本語の「ウ」を言うつもりで「オ」を言うと上手くいくでしょう。

その昔、「table は“ティボー”、chapel は“チャポー”と言えればより英語っぽい発音になる」と仰った音声学者がいましたが、ネイティブを参考にしたうえでそのように言えば、たしかにそれらしい英語になります。

PRACTICE [əɪ]

CD2 58

table → tabu(l)

apple → appu(l)

trouble → troubu(l)

final → finu(l)

travel → travu(l)

chapel → chapu(l)

◎ willについて

さてここで、willの発音ついて少し触れておきます。この単語も前後の単語によっては言いづらと思います。私も「いやな単語だな」と感じたことが何度もあります。

辞書ではwillの発音記号は、もちろん [wil] が載っています。しかし、さらに [wəl] そして [əl] も書かれています。この2つは発音する際に実に便利です。使わない手はありません。

いつも律儀にwillをそのまま発音しようとする、「かなり難しい」と感じている人がいるはず。なので、ここでは、生真面目に発音しない練習をします。

以下の練習文では [wəl] を wull、そして [əl] を ull とスペルアウトしていきます。そして、ullのuのところは日本語の「ウ」に近い音を出します。ただ、日本語の「ウ」とは微妙に異なり、「オ」の音色がかなり入っています。

順番に見ていきます。

I will do it. → I wull do it. → I ull do it.

とてもカジュアルな会話の中では、“I u do it”のように聞こえた経験があるかもしれません。ネイティブスピーカーを参考にしたうえで、“アオ do it.”のように言うこともできます。

1. I wull do it.
I ull do it.
2. He wull call you.
He ull call you.
3. The day wull come.
The day ull come.
4. Do you know what time they wull come back?
Do you know what time they ull come back?
5. We wull get in touch.
We ull get in touch.

いかがでしたか？ 今まで使ってきた発音と違うので変な感じがしましたか？ 最初はぎこちなくて構いません。練習してこれに慣れてしまうと大変楽な思いをしていくはずですよ。

それまで頑張ってください。

◎ “-cally” について

“-cally” で終わる単語を少し練習します。これは [kuli] のように発音すると上手くいきます。また、慣れてきたら青色部分を沈黙させて言うのも1つの方法です。ただし、難しいようでしたら無理して沈黙させる必要はありません。

basic**ally** economic**ally** scientific**ally** historic**ally**
philosophic**ally** psycholog**ically** politic**ally**

今後、自然な英語を聞くほどにお耳にかかる現象ですので、時間とともに体で吸収していきけるはずです。

◎ 「弱き」をくじく

発音しにくい単語で「1つでも発音を“はしよる”ことができたら楽だろうなあ」と思ったことはありませんか？ 私は何度もあります。そのような情熱(?)をもっていたからこそ発音の「はしよる術」を見つけることができました。以下に、いくつか紹介しますので試してみてください。

英語の発音はそもそも「強き」を大切に、「弱き」をくじく傾向にあります。場合によっては「弱い者」を無視してしまうこともあります。その「無視をする例」をいくつか練習しましょう。

PRACTICE Weak Sounds

CD2 61

左側の単語は、辞書通りの生真面目なスペルです。矢印の右に弱き音を省いた(自然な)形で書いてあります。

第1アクセントのすぐ近くにある強勢のない母音(シュワの場合が多い)は、発音されないことが多々あります。

mystery → **myst'ry**

chocolate → **choc'late**

every → **ev'ry**

beverage → **bev'rage**

liberal → **lib'ral**

camera → **cam'ra**

jewelry → **jew'lry**

comfortable → **comf'table**

vegetable → **veg'table**

restaurant → **rest'rant**

discovery → discov'ry

emerald → em'rald

history → hist'ry

common → comm'n

second → sec'nd

以上、いくつかを練習しました。最初は青字部分を省いて言うことに抵抗を感じたり、かえってギクシャクして言いづらいかもありません。しかし、これも慣れてしまえば、練習するほどに会話で実際話されている本物の発音に近づいていきます。ただし、必ずモデルを参考にしながら練習してください。

LESSON 9

リズムの練習

RHYTHM

ネイティブ同士の会話を聞いたときに、「まるで流れるように英語が話されている」と感じた人は多いのではないのでしょうか？ その理由の1つが英語独特のリズムにあります。このレッスンでは、そのリズムを徹底的に練習していただきます。LESSON 1~8までを地道に練習した後で、ここで英語特有のリズム感をつかむと、その人の英語は急に「日本人離れしたもの」になります。

手拍子でもフィンガーアクションでもよいので、体でリズムを刻んで、表現して、楽しみながら練習してください。そうやって楽しんでいくうちに英語独自のリズムや躍動感が体に浸透していきます。その結果、皆さんの英語がネイティブ英語に限りなく近づいていくでしょう。

英語独特のリズムを身につけよう！

さあ、リズムの練習を始めましょう。

日本語でも私たちは自分の一番言いたいことを強く言います。英語でも同じです。練習では、強調する箇所を力強く読んでいくことを意識しましょう。そのためにも、同時に意味も考えながらやってください。そうすることで、普段の会話でも意味に応じて、リズム感のある英語を話せるようになります。英語を聞く際にも「あそこを強調して話したな」などとしっかり観察することで、自分の英語もイキイキしてくるはずですよ。

基本的に英語では、文の中で言いたい単語（内容語）を強く発音し、文法上必要だけど内容的にはそれほど重きを置かない語（機能語：前置詞、冠詞など）を弱く言う傾向があります。

この練習で1つ大切なことは、リズムは音の高低でとらえるよりも音の力強さを意識していただきたいということです。ドラムが叩き出す強弱のビートを想像していただくとよいかと思います。強弱のあるビートの結果として音の高低も出てくる場合があります。

リズム練習のときに、時々声を出さずに指で机などを叩いたり、手で体の一部を叩いてリズムをとっていくのも大変よい練習になります。そうすることにより英語独特の強弱リズムに慣れていき、体内に英語のリズムを刻むことができるようになります。

*このレッスンでは典型的な強弱パターンを練習していきますが、ここで紹介するのは1つの例であり、同じ文でも様々なパターンが可能です。一つひとつのパターンをしっかりと練習していくことにより様々なパターンにも対応できるようになっていきます。

これまで学んできた基本はもちろん、「発音の変化」なども忘れずに活かして練習しましょう。

Let's warm up

CD2 62

まずは、簡単な例を2通りの言い方で練習してみましょう。

A

DA da da **DA**

I'm going to bed.

I'm going to bed.

「(他の人のことはいざ知らず)自分は寝るよ」というニュアンスになります。ここでは、“I”が一番言いたいことなので最も強く言います。そして、“bed”も重要な情報となるので強く言います。

B

da **DA** da **DA**

I'm going to bed.

I'm going to bed.

単純に「もう寝るよ」と言っています。ここでは、“go”と“bed”が要となる情報なので強めて言います。

以上の例のような短い例文から始め、徐々に長い文を練習していくことで英語のリズムに慣れていただきます。

以下の各練習では、強く読む部分に“ひときわ大きい青丸印”
“大文字のDA” “大きい文字” の3通りの表示をしています。

C



DA da da DA

Thank you very much.

Thank you very much.

D



da da DA da

You are welcome.

You are welcome.

E



da DA da

How **are** you?

How **are** you?

F



da **DA**

I'm **fine**.

I'm **fine**.

G



da da **DA**

How are **you**?

How are **you**?

この文では「あなたはいかがですか?」と「あなた」を強調しています。

いかがでしたか? それほど難しくなかったですよ? さらに練習を進めていきましょう。

まず、いくつか大切な基本パターンを練習します。難しくないと
 思います。でも、ばかにしないでしっかりやりましょう。

*DA daの表示は、各々最初の2つの練習文には付けていますが、それ以降の文には付
 けていません。


 PATTERN 1

強調したい単語が他にある場合や固有名詞の存在にもよりますが、これが1つの基本パターンです。たいてい最後の部分を強めま
 すが、最初に主語が来る場合、わずかに強めて言うこともあります。

da da **DA**

He's a **teacher**. He's a **teacher**.

da da **DA**

Are you **leaving**? Are you **leaving**?

See you **later**. See you **later**.

I'm at **school**. I'm at **school**.

It jumped **up**. It jumped **up**.

PATTERN 2

CD2 65

やはり、意味のうえで重みがある箇所に強勢が来ます。

da **DA** da

He **did** it. He **did** it.

da **DA** da

I **saw** him. I **saw** him.

She **came** here. She **came** here.

They **sold** it. They **sold** it.

He **squashed** it. He **squashed** it.

PATTERN 3

CD2 66

主語が代名詞ではないときには、主語に強勢が置かれる傾向が強まります。

DA da **DA**

Men need love. **Men** need love.

DA da **DA**

Books are cheap. **Books** are cheap.

Sue loves pears. **Sue** loves pears.

Dad's over there. **Dad's** over there.

Students came over.

Students came over.

PATTERN 4 

CD2 67

このパターンでは、一番言いたいことが最初に来ています。

DA da da

I'll take it. **I'll** take it.

(他の人はいざ知らず、自分はそれをもらいます)

DA da da

Think of it. **Think** of it.

Wait for him. **Wait** for him.

We did it. We did it.

(他の人ではなく私たちがやった)

There he is. There he is.

これから少しずつ文を長くしていきましょう。ここまでの練習をしっかりとってきた人は、文が長くなっても大丈夫です。

ここからは「● ● ●」や「da DA da」などの表示を外します。

ダイアローグは、同じ内容のものを2つ載せています。最初のものは、普通の大きさの文字で印刷されています。その次には、リズムに合わせて文字の大きさを変化させたものを載せています。

リズムの練習には、はじめは文字の大きさを変化させているほうを利用してください。リズムに慣れてきたら、すべて普通の大きさに書かれているほうで練習してください。

会話はそれぞれ「低速」と「ノーマルスピード」の2種類を収録しています。

この練習を続けていくと、おもしろいことに実際に英語を聞くときに、強調されている語がビジュアル的に大きくなって迫ってくる感覚に襲われることがあります。

1

- Are you coming back to the party?
- No, I'm not.
- Why not?
- Well, I've got so much work to do.
- Do it tomorrow. It's going to be fun.
- I'll take a rain check.

訳

- パーティーに戻ってくるかい？
 - いや、もう戻らないよ。
 - どうして？
 - いやあ、仕事が溜まっているんだ。
 - 明日やればいいだろう。楽しくなるぞ～。
 - また次の機会にするよ。
- *take a rain check：招待などを断るときに「また今度ね」という意味で使う。

さあ、やってみよう!

- Are you coming **back** to the **party**?
- **No**, I'm **not**.
(「他の人はともかく僕は戻らないよ」なら「I」に強勢を置くのでしたね)
- Why **not**?
- Well, I've **got** so much **work** to do.
- Do it **tomorrow**. It's going to be **fun**.
- I'll take a **rain check**.

2

- Where did you put the stuff?
- What stuff?
- The stuff you bought this morning.
- Oh, I left that in the bathroom.

訳

—“アレ” はどこに置いたの？

—“アレ” って何だよ？

—あなたが今朝買った物よ。

—ああ、バスルームに置いてあるよ。

*the stuff : 「物」「品物」などのことをstuffと言うことがよくあります。

さあ、やってみよう!

- **Where** did you put the **stuff**?
- **What** stuff?
- The **stuff** you **bought** this **morning**.
- **Oh**, I **left that** in the **bathroom**.

3

- I'm going to the store. Do you want anything?
- I'm fine, thanks. What are you buying?
- I need some bread.
- That reminds me. Can you get me some peanut butter?
- Sure thing.

訳

—店まで行くけど、何かいる？

—いや、大丈夫よ。サンキュー。何を買に行くの？

—パンを買わなくちゃ。

—あっ、それで思い出した。ピーナッツバター買ってきてもらえる？

—OK

*I'm fine : 人に飲み物や食べ物などを勧められて、「大丈夫です」と断る際に使えます。

さあ、やってみよう!

- I'm **going** to the **store**. Do you **want anything**?
- I'm **fine, thanks**. **What** are you **buying**?
- I **need** some **bread**.
- **That reminds** me. Can you **get** me some **peanut butter**?
- **Sure thing**.

4

- Do you want to go to a baseball game tomorrow?
- Yeah, that sounds great! What time does it start?
- At six. I'll come and pick you up at five.
- I can't wait.

訳

- 明日、野球の試合に行かないか？
- ああ、いいね！ 何時に始まるの？
- 6時だよ。5時に迎えに行くよ。
- 楽しみだな。

*pick ~up : 人を迎えに行くときの言い方です。~に入る名詞が長めの場合や2~3語以上の場合は、pick up ~となり、upの後ろに入る傾向があります。

さあ、やってみよう!

- Do you **want** to go to a **baseball game tomorrow**?
- **Yeah, that** sounds **great**! **What time** does it **start**?
- At **six**. I'll **come** and **pick** you **up** at **five**.
- I **can't wait**.

5

- We have to go now. The bus is leaving in ten minutes.
- Wait a minute. Let me dry my hair. Give me just one second.
- Hurry up. We don't want to miss the bus.
- All right, I'm all set.
- That was fast.

訳

- もう行くわよ。あと10分でバスが出るわよ。
 - ちょっと待って。髪の毛を乾かさせて。すぐ済むから。
 - 急いでよ。バスに乗り遅れたら大変よ。
 - OK、準備完了よ。
 - 早いわね。
- * ~ be all set : 準備完了で次の行動に移れますよ、ということを伝える際に使えます。

さあ、やってみよう!

- We **have to go now**. The **bus** is **leaving** in **ten minutes**.
- **Wait** a minute. **Let** me **dry** my **hair**. **Give** me just one **second**.
- **Hurry up!** We **don't** want to **miss** the **bus**.
- **All right**, I'm all **set**.
- **That** was **fast**.

6

- I'm leaving for Chicago next Monday.
- How long are you staying there?
- Well, I'm not sure. I'm going there to take care of my mom this time. She hasn't been feeling well these days.
- Oh, that's too bad. I hope she will feel better soon.

訳

— 来週月曜日にシカゴに行くんだ。

— どのくらい向こうにいるの？

— うーん、わからないんだ。今回は母親の世話に行くんだ。最近どうも調子が悪くてね。

— それは大変ね。お母さん、すぐよくなるといいわね。

*How long are you staying there? 現在進行形で未来を表すことがよくあります。

さあ、やってみよう!

- I'm **leaving** for **Chicago** next **Monday**.
- **How long** are you **staying** there?
- Well, I'm **not sure**. I'm **going** there to take **care** of my **mom** this time. She **hasn't** been feeling **well** these days.
- Oh, that's too **bad**. I **hope** she will feel **better** soon.

7

- Wow! You're still studying!
- I have an important test coming up next week. I have to pass the test to graduate.
- That's tough. I'll keep my fingers crossed.

訳

—ウワァー！ まだ勉強しているんだ！

—大事なテストが来週あるんだ。卒業するにはこれにパスしないと。

—それは大変ね。幸運を祈っているわ。

*keep one's fingers crossed : 「幸運を祈ります」の意。人差し指と中指を重ねる動作

さあ、やってみよう!

- Wow!** You're **still studying!**
- I **have** an **important test** coming up **next week.**
I **have** to **pass** the **test** to **graduate.**
- That's tough.** I'll keep my **fingers crossed.**

8

- Is this your first visit to Japan?
- Yes, it is. I've been in Japan for over a week now.
- So far, so good?
- It's been fantastic.

訳

- 今回が日本は初めてですか？
 - はい。今日で1週間以上になりますね。
 - 今のところよい旅ですか？
 - ええ、素晴らしいです。
- *so far, so good : 「これまでのところよい」「今のところ順調」という意味

さあ、やってみよう!

- Is **this** your **first visit** to **Japan**?
- **Yes**, it **is**. I've **been** in **Japan** for over a **week** now.
- **So far, so good?**
- It's been **fantastic**.

9

- You look pale. Are you feeling all right?
- I guess I'm coming down with a cold.
- You should lie down and keep yourself warm.
- Yeah, I will.

訳

- 顔色が悪いけど、大丈夫？
- どうやら風邪にやられたみたい。
- 横になって、暖かくしたらいいよ。
- ええ、そうするわ。

* come down with ~ : 「(病気など) ~にやられる」というときに使う表現です。

さあ、やってみよう!

- You look **pale**. Are you feeling **all right**?
- I guess I'm coming **down** with a **cold**.
- **You** should **lie down** and keep yourself **warm**.
- Yeah, I **will**.

10

- Do you like movies?
- Yes, I watch Japanese movies on TV every day.
- Every day!?
- Yes, every day. That's how I learn my Japanese. Sometimes I get carried away and watch more than three movies a day.

訳

—映画は好き？

—ええ、毎日テレビで日本映画を見ています。

—毎日？

—はい、毎日です。それで日本語を勉強しているんです。時々、調子に乗って3本以上も見てしまいますけど。

*get carried away : 「調子に乗る」

さあ、やってみよう!

- Do you **like movies?**
- **Yes**, I watch **Japanese movies** on TV **every day**.
- **Every day!?**
- **Yes, every day. That's how I learn my Japanese. Sometimes I get carried away and watch more than three movies** a day.

11

- A friend of mine is flying in from Hawaii this Saturday. I have to go and get him. Can you give me a ride to the airport?
- Sure. What time do you need to be there?
- About three in the afternoon. I hope it's all right.
- No problem.

訳

- 友人が今週の土曜日にハワイから飛んでくるので、空港まで迎えに行かなくてはいけないんだ。空港まで車で送ってくれるかな？
 - ああ、いいよ。何時に行かなくてはいけないのかな？
 - 午後3時ごろだな。大丈夫かな？
 - OKだ。
- * give ~ a ride : 「～を車に乗せる」、「車で送る」

さあ、やってみよう!

- A **friend** of mine is **flying in** from **Hawaii** this **Saturday**. I **have to go** and **get** him. Can you **give** me a **ride** to the **airport**?
- **Sure. What time** do you **need to be there**?
- About **three** in the **afternoon**. I **hope** it's **all right**.
- **No problem**.

いかがでしたか？ こういった練習を続けていくと大小の英語の波が見えてきて、リスニングが随分と楽になってくるはずです。

テレビでもラジオでも結構ですので、自然な英語を聞きながら体でリズムを刻んでみてください。ますます英語のリズムが磨かれると思います。

今後はシャドーイングをするときにも、ただ単に英語をそのままシャドーするのではなく、頭の中、もしくは実際に口に出して「DA da da～」などと言いながら英語を追いかけていくのもリズムの練習になります。そうすることによって、細かい1語1語の単語の発音にとらわれずにリズムに集中できるからです。声に出さずに指でタッピングをするだけの練習も効果的でしょう。

たかが発音、されど発音 〈その2〉

その他いくつか「通じなかった例」を羅列しましょう。

“Please come back by 10:50”

本当は「10時15分」と言いたかったガイドさん。誰も10時15分に戻って来ませんでした。私も“ten fifty”だと思っていました。

“Whore, please.”

アメリカのホテルのエレベーター内で行きたい階のボタンを押してもらいたくてこのように言ってしまった日本人。“Four, please.”と言いたかったのでしょうか。カタカナで「フォー」と言うと、下手をするとこのように聞こえてしまいます。

“We have to get cops.”

様々な国籍の仲間でパーティーを計画し、日本人男性がこう言うと、1人のアメリカ人が怪訝な顔をして、“Why?”とひと言。2人の間では会話は成立しませんでした。私が出しゃばって“He means ‘cups’.”と言って話は終わりましたが、そのアメリカ人は「なんで警官が必要なかわからなかったんだ」と言っていました。

“I’m planning to put a hon by the door.”

ある社内会議で日本人ボスが発したひと言。その場にいた英米人たちはもちろん、私も「本を置く?」と不思議でした。後日、それがphoneのことだと分かりましたが、あの会議で「ドアのそばに電話を置く」と理解した人は1人もいませんでした。

LESSON 10

文章で発音練習

Let's Recite Passages

さあ、いよいよ仕上げの練習です。内容のあるまとまった文章を読んでいきましょう。朗読には、高い技術と深い理解が必要ですが、まずは読み上げることを楽しんでください。もちろん、いい加減でいい訳ではありません。練習にあたって内容を吟味、理解したうえで、発音に注意して最低20回はCDを聞き、モデルの読み方を研究してください。

決して速く読もうとしないことです。最終的には原稿がなくても感情が込められた内容が人に伝わるような読み語りができることを目指しましょう。これは、人前でプレゼンテーションをすることに向けても有効な練習になります。

気に入った文章を手元に置いて、時間の許すときに朗読していきましょう。朗読は最高の練習法の1つです。なお本レッスンでは、「超低速」を使用していません。

1 The Whistler

I am the Whistler, and I know many things, for I walk by night. I know many strange tales hidden in the hearts of men and women who have stepped into the shadows. Yes, I know the nameless terrors of which they dare not speak.

訳 口笛を吹く男

私は口笛を吹く男、ホイッスラーだ。私は夜な夜な街をさまよっている。だから、いろいろなことを知っている。暗闇に足を踏み入れてしまった男や女の心の中に隠されている奇怪な話などもたくさん知っている。そう、私はあの連中が口にしようとしない得体の知れない恐怖を知っているのだ。

メモ

最初の朗読材料は、アメリカのラジオドラマ黄金期の人気番組を取り上げました。この“The Whistler”はどんでん返しで終わるサスペンスドラマです。毎回ストーリーが始まる前に怪しい口笛とともに、このセリフが入ります。霧の立ち込めた真夜中の街、あるいは星明かりだけが美しい不気味な街角。誰もいない静まり返った暗い街を1人の男が口笛を吹きながら歩いて恐怖を語っている様子を想像してみてください。さあ、ラジオの前にみんな座ってドラマが始まるのを待っていますよ。非常に短いナレーション部分ですが、練習のやり甲斐はあると思います。

怖〜い語りで皆を引きつけられるように読み上げていきましょう。

② Is There A Santa Claus?

Yes, Virginia, there is a Santa Claus. He exists as certainly as love and generosity and devotion exist, and you know that they abound and give to your life its highest beauty and joy. Alas! how dreary would be the world if there were no Santa Claus. It would be as dreary as if there were no Virginias. There would be no childlike faith then, no poetry, no romance to make tolerable this existence. We should have no enjoyment, except in sense and sight. The eternal light with which childhood fills the world would be extinguished.

訳 サンタクロースっているの？

そう、ヴァージニア、サンタクロースはいるんだよ。人を愛する気持ち、優しさ、そして、思いやる心って、ちゃんとあるでしょう。それと同じようにサンタクロースはいるんだ。そして、そのような人の心があちらこちらにあふれているから、みんな素敵な毎日を過ごせるし、幸せなんだよ。そうだねえ、もしサンタクロースがいなかったら、この世界は本当に悲しいものになってしまう。ヴァージニアのような子がいなかったらどうだろう？ それはすごく悲しいことだよね。それと同じなんだ。子どものような真っ白な心も、詩も、夢も、みんななくなってしまう。そうなったら生きていられないよね。実際に目で見たり感じたりできるものしか楽しめないなんて。子供たちはいつも世界にいっぱい光を当ててくれている。でも、もしサンタがいなければ、そんな光も消えてなくなってしまうのだよ。

メモ

Virginiaという8才の少女が新聞（The New York Sun）に「サンタクロースっているの？」と質問したことに対する回答の一部です。これは120年も前の社説ですが、いまだに多くの人に読まれています。愛情たっぷりの回答者の文章ですね。

3 The Teaching of Buddha

To worry in anticipation or to cherish regret for the past is like the reeds that are cut and wither away.

The secret of health for both mind and body is not to mourn for the past, not to worry about the future, or not to anticipate troubles, but to live in the present moment wisely and earnestly.

Do not dwell in the past, do not dream of the future, concentrate the mind on the present moment.

It is worthy to perform the present duty well and without fail; do not seek to avoid or postpone it till tomorrow. By acting now, one can live a good day.

訳 仏教聖典

まだこない未来にあこがれて、とりこし苦勞をしたり、過ぎ去った日の影を追って悔いていれば、刈り取られた葦のように瘦せしぼむ。

過ぎ去った日のことは悔いず、まだこない未来にはあこがれず、とりこし苦勞をせず、現在を大切にふみしめてゆけば、身も心も健やかになる。

過去は追ってはならない、未来は待ってはならない。ただ現在の一瞬だけを、強く生きねばならない。

今日すべきことを明日に延ばさず、確かにしていくことこそ、よい一日を生きる道である。

(『和英対照仏教聖典』公益財団法人 仏教伝道協会)

メモ

ホテルの客室でよく見かける仏教聖典からの引用です。私たちが生きていくうえで示唆に富んだ言葉がたくさん書かれています。取り上げた文章は、もちろん一部でしかありませんが、しっかり朗読できるように練習してみましょう。外国の人からは仏教、神道について聞かれることがしばしばあります。そのような意味でもこの仏教聖典を音読しておくことはよいことですし、何よりも人生における大いなる指針となり得ます。

4 The Power of Time

They forget the power of Time, and the restrictions which Time imposes. “This *or* that, not this *and* that,” is the rule to which all of us have to submit, and it strangely equalizes the destinies of men. The time given to the study of one thing is withdrawn from the study of another, and the hours of the day are limited alike for all of us.

訳 時間の力（『知的生活』より）

あの人たちは時間のもつ力を、そして時間には限りがあるのだということを忘れてしまっている。私たちは「これもあれも」ではなく、「これかあれか」と選択しなくてはならないのだ。これは誰しものがどうしても従わなくてはならない鉄則なのである。そして、おもしろいことに、このことがすべて人間を平等にしている。我々が1つの研究に費やす時間は、結局は別な研究に費やしたであろう時間をもってきて充てているのである。そして、1日の時間は誰にでも等しく与えられているが、それは決して無限ではないということをお忘れてはならない。

メモ

Philip Gilbert Hamertonの“The Intellectual Life”からの極々一部を紹介しました。知的生活を求める人間なら誰しものがぶち当たる時間の壁について語られている箇所の数行です。貴重な時間とはどのようなものなのか、限られた時間をいかに使うべきか、など様々な思いをはせながら読んでみましょう。

5 Uncle Tom's Cabin

She dreamed she heard her husband's footstep. She felt him coming nearer. His arms were round her, his tears falling upon her face, and she awoke.

It was no dream. The sun had set, the candles were lit. Harry was sleeping by her side, and George, her husband, was holding her in his arms.

The two had much to say to each other. George told how he had escaped from his cruel master, and how he had followed Eliza all the way and at last found her.

訳 アンクルトムの小屋

彼女（エライザ）は夢の中で夫の足音を聞いた。そして、夫が近寄ってくるのを感じた。夫の腕がエライザを包み、彼の涙が彼女の顔の上に零れ落ちてきた時、エライザは目を覚ました。

夢ではなかったのだ。太陽はすでに沈み、ロウソクには火が灯っていた。傍らではハリーが寝ている。夫のジョージはエライザを両手で包んでいた。

2人には積もる話があった。ジョージは残忍な主人のもとから逃げ出して、エライザの後をずっとここまで追いかけて、やっとこうして会えたのだと語った。

メモ

アメリカの奴隷制度を背景とした物語、『アンクルトムの小屋』から一部を選びました。

奴隷の身分であるため、別々の“ご主人様”の家に住んでいた奴隷夫婦のGeorgeとEliza。2人の間にはHarryという男の子がいて、Elizaと一緒に住んでいました。Elizaのご主人様は優しい人でしたが、借金のためどうしてもHarryを売らざるを得なくなってしまいます。それを知ったElizaはHarryを連れて逃げることを決意します。夫のGeorgeも残忍な主人のもとから逃げ出しElizaの後を追います。幾多の苦難の末、2人は再会を果たすのですが、逃亡劇はまだ続きます。ここで取り上げたのは、再会の場面です。

辛い日々を過ごし、まさに夢のごとくやっと果たした再会。その喜びを読み上げられたら素晴らしいですね。

6 “Unforgettable People”, Part 2 (from *A Handful of Sand*)

The voice I heard in my dream
quite by chance
I heard for such a long time;
and yet now have not heard
for a long time. A pity.

The picture of her
is with me still:
that black-eyed maiden
whose eyes absorbed
all the light in the world.

The important words
I wished to say to you
on that occasion
I failed to say,
and they still remain in my heart.

I cannot seem to feel
the reality of what I heard—
that you fell ill,
that you got well—
because we are so far apart.

I hope you can understand
how my heart danced
when I saw
on the street
a girl who looked like you.

To chase
the shadows
from my heart this morning
I would only need
to hear your voice.

If I said to you
I'd like to see you again
before I die,
I wonder,
would you nod in understanding?

訳 一握の砂 忘れがたき人々(二)

いつなりけん

夢にふと聴きてうれしかりし

その声もあわれ長く聴かざり

世の中の明るさのみを吸うごとき

黒き瞳の

今も目にあり

かの時に言いそびれたる

大切な言葉は今も

胸にのけれど

病むと聞き

癒えしと聞きて

四百里のこなたに我はうつつなかりし

君に似し姿を街に見る時の

こころ躍りを

あわれと思え

かの声を最一度聴かば
すっきりと
胸や霽れんと今朝も思える

死ぬまでに一度会わんと
言いやらば
君もかすかにうなづくらんか

〈以上、一部抜粋〉



石川啄木の「一握の砂 忘れがたき人々」から一部を載せました。このように英語と日本語の両方を参考にしながら読んでいくとさらに理解も進み、味わいも出てくるかもしれません。ある人を恋しく想う啄木の気持ち。甘くも苦く、そして、切ない心を英語で読み上げてみましょう。

たかが発音、されど発音〈その3〉

具体的な言葉の例ではないのですが、私の外国人の知人でAさんという方がいます。Aさんは翻訳者ですが、驚くほど日本語の知識が豊富です。古典の表現から奥ゆかしい日本語まで使いこなします。ただ、大変残念なことにAさんの日本語の発音が時々不明瞭なことがあるために会話が中断してしまうことがあります。この点に関してはAさん本人もわかっていて気にしているようです。素晴らしい日本語力を備えているのですから、日本人と同じ発音とまではいなくても、せめて我々が聞いてわかる発音ができればAさんにとってもどんなによいかと思ってしまうます。私も理解しようと努力はするのですが、わからないものはわからないのです。

私たちの場合も、ネイティブ同様の発音を獲得する必要はありませんが、通じる発音を身につける努力はするべきだと思います。

いくつか例を書きました。やはり、「たかが発音、されど発音」ですね。ものによっては「やっぱりこれはマズイ」と思えるものもあります。「発音がまずくても通じればいいんだ」という意見もありますし、一理あるでしょう。しかし、「通じた」と思っているも実際は通じていないことがありますし、誤解を与えることが往々にしてあるから問題なのです。それに、仮に通じたとしても、失礼になったり、ばつの悪い状況、恥ずかしい思いをすることは避けたいですね。ここでは書けないような失礼な例、恥ずかしい例はたくさんあります。

FREEBIES

カタカナを英語で発音する

Convert KATAKANA Into English

私たちが日常何気なく使っている「カタカナ」には英語でも通じるものもありますが、そのままの発音では英語として通じないものがたくさんあります。

ここでは、よく耳にするカタカナが、英語では実際どのように発音されるのかを確認していきます。モデルの発音をよく聞いてカタカナと実際の英語の違いを確認して覚えてください。

このリストに収まらない単語はもちろんあります。ぜひ、今後も遭遇するカタカナを「英語ではどのように発音されるのかな？」と問題意識をもって確認していきましょう。

アクセサリー	accessory
アクロバット(技)	acrobatics
アクロバット(曲芸師)	acrobat
アナログ	analogue
アニメ	anime
アメーバ	ameba
アーモンド	almond
アレルギー	allergy
アルコール	alcohol
アルミニウム	aluminum
イベント	event
インスタント	instant
イメージ	image
ウィーン(オーストリアの首都)	Vienna
ウイルス	virus
ウオッカ	vodka
ウラニウム	uranium
ウレタン	urethane
エスカレーター	escalator
エナメル	enamel
エネルギー	energy
エメラルド	emerald
エレベーター	elevator
オアシス	oasis
オラウータン	orangutan
オリンピック	the Olympics
オレンジ	orange

2

CD1 86

カオス	chaos
カタログ	catalog
カジノ	casino
カテゴリー	category
カレンダー	calendar
カルシウム	calcium
キリスト	Christ
ケチャップ	ketchup
ゲリラ	guerrilla
コアラ	koala
ココア	cocoa
コーヒー	coffee
ゴリラ	gorilla

3

CD1 87

サテライト	satellite
サンドイッチ	sandwich
ジャケット	jacket
シャツ	shirt
シャンプー	shampoo
シリンダー	cylinder
シルエット	silhouette
シンポジウム	symposium
スケジュール	schedule
スパゲッティ	spaghetti
スムーズ	smooth
スリル	thrill
セーター	sweater
セメント	cement
ソケット	socket
ソムリエ	sommelier

4

CD1 88

タルタルソース	tartar sauce (taratar には「歯石」という意味もあります)
タルト	tart
チップ (心づけ)	tip
チューリッヒ	Zurich
デッサン	a rough drawing

5

CD1 89

ナトリウム	sodium
ナビゲーター	navigator
ナフタリン (衣類用の)	mothball
ナポリ	Naples
ナポレオン	Napoleon
ニス	varnish

6

CD1 90

ハードル	hurdle
ハンドル	handle (自動車のハンドルは steering wheel、または単に wheel)
パーマ	permanent / perm
バッグ	bag
ピザ	pizza
ビタミン	vitamin
ビニール	vinyl (ビニールは通常 plastic を使います。ビニール袋は plastic bag)
プラチナ	platinum
ベクトル	vector
ボランティア	volunteer
ボリューム	volume

ボンネット

bonnet

(米では「婦人用の帽子」、英では「車のボンネット」。米で車のボンネットはhoodと言います)

7

CD1 91

マーガリン

margarine

マクドナルド

McDonald's

マスコット

mascot

マスタード

mustard

マネージャー

manager

マヨネーズ

mayonnaise

ミイラ

mummy

メートル(メーター)

meter

メカニズム

mechanism

メダル

medal

メディア

media

メンソール(メントール)

menthol

モデル

model

8

CD1 92

ラドン

radon

ラベル

label

ラベンダー

lavender

リットル(リッター)

liter

リレー

relay

ルーチン/ルーティン

routine

ルーレット

roulette

レフリー

referee

レントゲン

X rays

ロケット

rocket

ロボット

robot

ワクチン

vaccine

お疲れ様でした！

最後まで練習した方はさぞ上達されたことと思います。

冒頭でも触れましたが、人によっては海外経験がゼロでも外国人に「アメリカに住んでいたのか？」「どこでそんなに素晴らしい英語を身につけたのだ？」と聞かれた人もいるはずです。ですので、「これによし」として本書の練習終了をもって発音練習に終止符を打つのもよいでしょう。ここまで来たらもう今後の判断はあなた次第です。しかし、「外国語の勉強・練習とは砂浜の波打ち際で文字を書くようなものだ」と仰った方がいます。つまり、常に努力をしていないと打ち寄せてくる波にせっかく書いた文字もすぐ消されてしまうということです。ですから、今後も努力は続けていただきたく思います。必ずしも本教材を使わなくても身の周りにふんだんにある生の素材を十分活用してさらに高く飛んでいってください。

リスニングなどの練習には自分の好きな材料を使うのが一番だと思います。自然な英語が聞けるものとして映画などはよいと思います。ただし、「映画がよい」と言われたからといって、映画が好きでもない人が勉強のためとはいえ無理して映画を何時間も見るのが得策とは思えません。周囲に流されずにご自身の判断を大切にしてください。今や日本には英語を勉強するには理想的な環境がそろっていますし、自宅がそのまま留学状態になります。このトレーニング教本をじっくりとやったうえで、身の周りのものを十二分に活用すれば、あなたの英語は劇的に変わるはずです。

しばらくしてから、再び基本に戻ってあらためて本書を集中的に練習していただくのも大変有効な方法だと思います。学習者の皆さんが各自のやり方を見つけて、楽しみながら精進して行かれることを心から願います。

●謝 辞●

本書への引用に快く許可をくださった関東学院大学国際文化学部の西原克政教授、仏教伝道協会に深く感謝いたします。また、複雑な編集作業を誠心誠意で遂行してくださった、かんき出版の米田寛司氏に心より感謝いたします。そして、ぶらっと築地の山崎徳子氏なくしては、本書が世に出ることもありませんでした。

〈参考資料〉

- ・ “Is There A Santa Clause?” The New York Sun (21 September 1897)
- ・ 『THE TEACHING OF BUDDHA 和英対照仏教聖典』（公益財団法人 仏教伝道協会 1981年版 P.376～P.379 現行版とは参考ページが異なります）
- ・ “The Intellectual Life” by Philip Gilbert Hamerton (Charles E. Tuttle Co. 1980)
- ・ “Uncle Tom’s Cabin” by Harriet Beecher Stowe (Barse & Hopkins)
- ・ “The Singing Heart” compiled and annotated by Yamamoto Kenkichi, translated by William I. Elliot and Nishihara Katsumasa (Katydid Books 2001)
- ・ 『一握の砂 悲しき玩具』石川啄木作（岩波少年文庫 2001年）
- ・ “Improving Your Pronunciation” by Vernon Brown（明隣堂 1970年）
- ・ “Voice as an Instrument” by Raymond Rizzo（Odyssey Press）
- ・ 『超低速メソッド英語発音トレーニング』内海克泰著（国際語学社 2011年）

【著者紹介】

内海 克泰（うつみ・かつひろ）

◎——1954年横浜生まれ。1979年青山学院大学文学部教育学科卒業後（在学中サンフランシスコ大学に留学）、明治学院高校教諭となる。

◎——高校在職中、英会話学校、インタースクール通訳・翻訳科でも講師を務める。数多くの教え子をスピーチコンテストで優勝に導くとともに、自らも複数の大会で優勝をおさめる。

◎——2006年、フリー通訳に。現在は、通訳・翻訳・バイリンガル MC として活躍。外国政府要人をはじめ弁護士、民間企業、エンジニア通訳をする一方、横浜港に入港する外国豪華客船内シアターで行われる式典やショーのほとんどの英語司会を担当している。また、通訳ガイド・日本文化通訳者としてサウジアラビア王室をはじめ、様々な VIP 対応の豊富な経験をもつ。著書に、『超低速メソッド英語発音トレーニング』『超低速メソッド英語発音トレーニング Advanced』『ネイティブなら6歳児でも持っている英語のコアの育て方』（いずれも国際語学社）がある。

完全版 超低速メソッド

英語発音トレーニング 〈DVD1枚、CD2枚付き〉

〈検印廃止〉

2017年2月1日 第1刷発行

2019年4月1日 第3刷発行

著者——内海 克泰

発行者——齊藤 龍男

発行所——株式会社かんき出版

東京都千代田区麴町4-1-4 西脇ビル 〒102-0083

電話 営業部：03(3262)8011(代) 編集部：03(3262)8012(代)

FAX 03(3234)4421

振替 00100-2-62304

<http://www.kanki-pub.co.jp/>

印刷所——シナノ書籍印刷株式会社

乱丁・落丁本はお取り替えいたします。購入した書店名を明記して、小社へお送りください。ただし、古書店で購入された場合は、お取り替えできません。

本書の一部・もしくは全部の無断転載・複製複写、デジタルデータ化、放送、データ配信などをすることは、法律で認められた場合を除いて、著作権の侵害となります。

©Katsuhiko Utsumi 2017 Printed in JAPAN ISBN978-4-7612-7236-4 C2082

